設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1　「地方創生 2.0 基本構想－抜粋－　令和 7 年 6 月 13 日　閣議決定」 2
資料 2　「魅力ある地方大学の実現に向けて」（抜粋） 4
資料 3　「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の特例的な定員増について」
（抜粋） 5
資料 4　地方公共団体等からの要望書 6
資料 5　調査報告書（抜粋）－地域創造学部で学んだ卒業生の採用－ 14
資料 6　地域創造学部　教育課程構造図 16
資料 7　履修モデル 18
資料 8　養成する人材像と３つの方針の関係性 20
資料 9　専門分野別　授業科目・基幹教員一覧 22
資料 10　卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針及び科目配置との関係 23
資料 11　主要授業科目一覧 25
資料 12　実習施設一覧 26
資料 13　基幹教員一覧 27
資料 14　主要授業科目　担当基幹教員一覧 30
資料 15　学校法人北海道科学大学定年規程 31
資料 16　学校法人北海道科学大学定年退職者の再任用に関する規程 33
資料 17　学校法人北海道科学大学特任職員の任用に関する規程 36
資料 18　定年を延長する基幹教員の補充計画 40
資料 19　教育研究実施組織編制の将来構想 41
資料 20　校舎等建設計画（非公開） .....
資料 21　面積基準の算出根拠となる審査基準等 42
資料 22　校地校舎等の図面 43
資料 23　図書購入計画・学術雑誌一覧 47
資料 24　地域創造学部　地域創造学科　授業時間割 65
資料 25　北海道科学大学自己点検・評価規程 67
資料 26　北海道科学大学ファカルティ・ディベロップメント規程 70
資料 27　学校法人北海道科学大学スタッフ・ディベロップメント規程 73
資料 28　北海道科学大学キャリア支援センター規程、キャリア支援委員会規程 75

資料１

地方創生 2.0 基本構想　令和7年6月 13 日　閣議決定　－抜粋－

第3章　地方創生 2.0 の起動

1. 目指す姿

人口減少が進む中にあっても、我が国の成長力を維持していくためには、都市も地方も、そして性別や世代を問わず、楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会を創っていく必要がある。我が国の基盤である「強い」経済と、「豊かな」生活環境を更に発展させ、その基盤の上に、地域や人々の多様性が、国民の多様な幸せ、「新しい日本・楽しい日本」を創り出していく。

(1)「強い」経済

人口減少が進行し、将来の不確実性が増す現在では、将来にわたる経済成長への継続的な期待が、賃金上昇や投資の拡大を通じて新たな成長を生み出すような好循環につながることが求められている。人口減少が進む地方では、地域の特性をいかすことで、持続的な競争力を備えた、変化や逆境に強い経済を築く必要がある。

そのような強い経済基盤を地方に構築することにより、豊かな社会生活の環境を形成し、域外への人口流出を抑制するとともに、新たな人材や企業を呼び込む力を高め、地域内における一層強い地方経済を生み出すことができる。ひいては、強い地方経済が日本経済全体の成長ポテンシャルを引き出す原動力となり、グローバルサプライチェーンを支え、経済安全保障につながる力ともなり得る。

人口減少や地域の産業構造を踏まえれば、従来のように規模の経済を追求し、コスト削減を図る手法ではなく、地域に根ざした産業分野においてこそ、イノベーションを創出し、付加価値労働生産性の高い、稼ぐ力を備えたビジネスモデルを確立し、地方を元気にする、地方に活力をもたらすことが不可欠である。

そのためには、都市部にはない地域独自の資源、例えば、食、自然、文化、芸術、景観といった多様な魅力を組み合わせ、モノや資源の循環も進めながら、新たな産業・事業・イノベーションの拠点を地方に創出することが重要である。

また、地産外商や観光誘客の促進を通じて、国内外の需要を地域に取り込むこと、EBPMの考え方に基づきマーケティング等へのデータ活用や、AI・デジタル等の先端技術を徹底して活用することが求められる。

たとえ生産年齢人口が減少する局面にあっても、潜在成長性の高い産業を中心に、地方において自立的かつ持続的に「稼げる」地方経済をつくり出していく。

【10 年後に目指す姿】

○ 地域資源を活用した高付加価値型の地方経済をつくる

・ 地域資源を活用した新たな産品、サービスが生み出せる

：東京圏以外の道府県の就業者1人当たり年間付加価値労働生産性を東京圏と同水準とする

・ 地域で国際競争力のある産品を生み出し、世界に向けても売り込める

：地方発の代表的な産品である農林水産物・食品（日本産酒類を含む。）の輸出額とインバウンドによる食関連消費額の合計を3倍とする

・ 新たな起業に挑戦できる環境が整っている

：スタートアップ企業など地域の課題解決や新しい産業の創出を通じて価値創造をしていこうとする企業がある市町村の割合を 10 割とする

（2）「豊かな」生活環境

地域における生活基盤には、官民を問わず多様な主体によって提供される、買物、子育て支援、医療、教育、通信、交通といった、日々の暮らしに欠かせない機能が存在する。これらはそれぞれが独立しているわけではなく、相互に補完し合いながら地域住民の生活を支えており、地域によっては、一たび、いずれかのサービスが失われた場合、人口流出につながるおそれがある。一方で、従来型の一律的なインフラ維持やサービス提供モデルでは、もはや十分に対応できない局面に差し掛かっている。

当面の人口減少を正面から受け止め、新たなサービスモデルの創設や地域づくりの機会と捉えることが重要である。人口が減少する中でも、誰もが安心して生活できる適応策を講じ、必要な生活機能を持続的に確保できる制度と体制を整えることが必要である。

その際、将来の地域の人口、その構成や分布などの具体的な姿を前提として、地域の在り方をそれぞれの地域で考えていくことが求められる。具体的には、買物や交通など、日常生活に不可欠なサービスが将来にわたり安定的に提供されるためには、一定の生活機能を備えた拠点を形成し、それを軸とした持続可能な暮らしの在り方について、地域ごとに検討を進めていくことが求められる。地域生活の基礎となる自然環境などの持続可能性にも配慮し、地域資源を活用した資源循環モデル等を地域で作っていくことも重要である。あわせて、従来の延長ではない、地域の実情を踏まえた新たなサービス提供や運営手法を打ち立て、地域の合意の下で展開されることが必要である。

資料２

魅力ある地方大学の実現に向けて（抜粋）

令和２年９月

文部科学省

地方大学の目指す方向性

○地方大学は、地域のニーズに応えるという観点からも充実し、知の拠点として地域ならではの人材を育成・定着させ、地域経済・社会を支える基盤となることが必要

○地域特性・ニーズを踏まえた人材育成やイノベーションの創出・社会実装に取り組む地方大学の機能強化、活性化が重要

資料３

魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の特例的な定員増について

（抜粋）

令和３年２月

中央教育審議会大学分科会

（地方大学の役割）

国立大学をはじめとする我が国の大学を取り巻く状況は大きく変化している。デジタル化やグローバル化の進展、Society 5.0 の到来等、知識集約型社会へと社会・産業構造の急速なパラダイムシフトが起きている。また、少子化や生産年齢人口の減少、過度な一極集中等によって地域の活力が低下しつつある。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一極集中から地方分 散への流れが大きく加速している中にあって、地方創生や地域分散型社会形成に向けた取組の重要性が増してきている。

このような現状下、地域において、「知」の集積地である大学にしか果たせない役割がある。例えば地方大学には、医療、福祉、教育といった地域のエッセンシャルワーカーを育成する役割がある。また、地域の産業界等と連携をすることで、リカレント教育等を通じて地域に必要な労働力を育成するという側面もある。さらに、教育研究機能を活用し、地域の特性を生かした産業創出やそれに伴う雇用創出等も期待されるところである。

大学の知的資源を活用し、地域の産業界等と連携することによって、地域課題の解決に取り組むこと等により、大学が地域の核となる取組が生まれつつある。今後、こうした取組を更に推進し、大学が地域の教育研究の拠点として、全国各地において各地域のポテンシャルを引き出し、より一層、地方創生に貢献していくという在り方が求められることとなる。

資料４

札公推第１９８号
令和７年（2025年）１０月　６日

北海道科学大学
学長　川上　敬　殿

札幌市長　秋元　克広

北海道科学大学地域創造学部地域創造学科設置について（回答）

日頃より、本市のまちづくりの推進にご理解とご協力を賜り、感謝を申し上げます。
さて、７年９月２６日付けでご依頼をいただきました貴学の地域創造学部地域創造学科開設につきまして、ご回答申し上げます。
本市では、社会的課題が複雑化・高度化していく中で、行政のみで課題解決を図ることがますます困難になっていくことが見込まれていることから、大学をはじめとする多様な主体との連携・協働を推進し、新たな価値を共に創出することにより、課題解決に取り組んでおります。
また、大学との連携により戦略的なまちづくりを加速し、若者の地元定着につなげるとともに、大学と地域コミュニティの活性化を推進しております。
地域創造学部が目指されているものは、本市のまちづくりと方向性を同じくするものであると考えており、開設されることを歓迎いたします。地域創造学部につきましては、本市の抱える様々な課題をフィールドとした教育・研究と、これを通じた地域に根差した実践的な人材育成により、本市のまちづくりの推進にもご協力いただける学部としてご検討いただけますと幸いでございます。。
本市といたしましては、地域創造学部の開設を契機に、北海道科学大学との連携を深めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いいたします。

樽官民第４９号
令和７年１０月２８日

北海道科学大学
学長　川上　　敬　様

小樽市長　　迫　　俊　哉

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置への賛同について

日頃より、本市の市政運営に対し格別のご理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市と貴学は、平成３０年４月に包括連携協定を締結し、地域社会の発展と人材育成及び学術の振興に寄与することを目的に連携した取組を進めてまいりましたが、このたび、貴学より、令和９年度の「地域創造学部 地域創造学科」の開設に向けたご準備を進めている旨について、ご説明をいただいております。

本市は人口減少対策を最重要課題として市政を推進しており、定住促進と転出抑制、子育てや教育の環境充実、働く場の創出などに取り組んでおりますが、地域の実情を的確に捉え、地域資源を活かし、主体的に課題解決を進める人材の育成・定着が不可欠です。

貴学が設置を目指す地域創造学部は、地域の実情を踏まえつつ、実践的な学びを通じて地域課題の解決を担う人材を育成することを目的として設置されるものであり、本市と貴学が締結する包括連携協定の連携事項とも合致するものと考えております。

つきましては、本市は貴学における地域創造学部 地域創造学科設置の趣旨に賛同し、設置後は貴学との連携を一層深め、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

石企画第１９３号
令和７年11月25日

北海道科学大学
学長　川上　　敬　様

石狩市長　加藤　龍幸

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置について

日頃より、石狩市のまちづくりに、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

本市におきましては、学びに係る政策と育ちに係る政策の両者を相互に連携させ、子どもの未来を後押ししていくことを目指し、総合的に教育施策を進めているところであります。

さて、本市と貴学は、令和７年４月に包括連携協定を締結し、地域の課題に適切に対応し豊かで活力ある地域社会の形成及び発展、人材育成並びに学術の振興に寄与することを目的に連携した取組を進めており、「地域課題に関するグループワーク」や「石狩市をフィールドとした建築設計演習」、地域の魅力や特色、暮らし、働き方について学生に向けて発信する「わがまちブース」など、多くの連携事業を行ってきたところであります。

さらに、市政に関わる場としての石狩市都市計画審議会、石狩市社会福祉審議会、石狩市地域公共交通活性化協議会、石狩市自転車活用推進協議会、石狩市風力発電ゾーニング手法検討委員会、空家等対策協議会、石狩市社会教育委員など、多岐にわたる委員会等において、多数の教授の皆さまに委員として当市のまちづくりに参画いただいているほか、多くの卒業生が本市に奉職し、中心的な役割で活躍しているところであります。

近年では、少子高齢化、人口減少、地域間格差などの社会的変化や気候変動の影響により、激甚化・頻発化する自然災害などの環境的変化が進む中で、地域資源を活用しながら環境、経済、産業振興のバランスを取り、持続可能性と強靭性を備えた社会の構築が求められており、これらの課題に対応するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域の実情を深く理解し、地域資源を最大限に活用し、新たな発想と行動力を持って主体的に課題解決に取り組むことができる人材が求められています。

新たに開設を準備されている地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究し解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指しており、本市といたしましても、地域創造学部の開設により貴学との連携をさらに深め、持続可能な地域社会の実現に向けて取り組んでいけるものと期待しており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

網 企 調第 ５０ 号
令和７年１２月２５日

学校法人北海道科学大学
　理事長　苫米地　司　様

網走市長　水谷　洋一

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置に関する要望書

日頃より、当市の運営につきまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、貴法人の設置校である北海道科学大学では、令和９年度より地域創造学部地域創造学科の開設を準備されている旨の説明をいただきました。

北海道は、豊かな自然、多様な文化、そして食という魅力的な地域資源を有する一方で、深刻な人口減少と高齢化、地域経済の低迷、担い手不足など、多くの課題に直面しています。全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進行しており、特に札幌市及びその近郊を除く地方圏においては、産業の衰退、医療・福祉サービスの低下、公共交通機関の維持困難、そして地域コミュニティの担い手不足など、深刻な状況にあります。これらの課題に対応するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域の実情を深く理解し、地域資源を最大限に活用し、新たな発想と行動力を持って主体的に課題解決に取り組むことができる人材が求められています。

地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究したり解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指すと伺っております。地域創造学部は、まさにこのニーズに応えるための学部であると強く期待するものです。

地域創造学部の開設は、網走市が直面する課題を克服し、持続可能な地域社会を創造するための重要な一歩となると確信しております。北海道科学大学と地域社会の未来を担う人材育成に共に取り組んでいきたいと願っており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

池地地第４８号
令和８年２月３日

北海道科学大学
学長　川上　　敬　様

北海道池田町
町長　安井　美裕

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置に関する要望書

日頃より、当町の行政運営につきまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、貴学では、令和９年度より地域創造学部地域創造学科の開設を準備されている旨の説明をいただきました。

北海道は、豊かな自然、多様な文化、そして食という魅力的な地域資源を有する一方で、深刻な人口減少と高齢化、地域経済の低迷、担い手不足など、多くの課題に直面しています。全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進行しており、特に札幌市及びその近郊を除く地方圏においては、産業の衰退、医療・福祉サービスの低下、公共交通機関の維持困難、そして地域コミュニティの担い手不足など、深刻な状況にあります。これらの課題に対応するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域の実情を深く理解し、地域資源を最大限に活用し、新たな発想と行動力を持って主体的に課題解決に取り組むことができる人材が求められています。

地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究し解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指すと伺っております。地域創造学部は、まさにこのニーズに応えるための学部であると強く期待するものです。

地域創造学部の開設は、北海道が直面する課題を克服し、持続可能な地域社会を創造するための重要な一歩となると確信しております。北海道科学大学と地域社会の未来を担う人材育成に共に取り組んでいきたいと願っており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

令和８年１月１３日

北海道科学大学
　学長　川上　　敬　様

伊達商工会議所
　会頭　壽淺　雅俊

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置に関する要望書

日頃より、当商工会議所の運営につきまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、貴学では、令和９年度より地域創造学部地域創造学科の開設を準備されている旨の説明をいただきました。

北海道は、豊かな自然、多様な文化、そして食という魅力的な地域資源を有する一方で、深刻な人口減少と高齢化、地域経済の低迷、担い手不足など、多くの課題に直面しています。全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進行しており、特に札幌市及びその近郊を除く地方圏においては、産業の衰退、医療・福祉サービスの低下、公共交通機関の維持困難、そして地域コミュニティの担い手不足など、深刻な状況にあります。これらの課題に対応するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域の実情を深く理解し、地域資源を最大限に活用し、新たな発想と行動力を持って主体的に課題解決に取り組むことができる人材が求められています。

地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究し解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指すと伺っております。地域創造学部は、まさにこのニーズに応えるための学部であると強く期待するものです。

地域創造学部の開設は、伊達市が直面する課題を克服し、持続可能な地域社会を創造するための重要な一歩となると確信しております。北海道科学大学と地域社会の未来を担う人材育成に共に取り組んでいきたいと願っており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

令和８年１月21日

北海道科学大学
　学長　川上　　敬　様

倶知安商工会議所
会頭　白木　　茂

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置に関する要望書

日頃より、当商工会議所の運営につきまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、貴学では、令和９年度より地域創造学部地域創造学科の開設を準備されている旨の説明をいただきました。

北海道は、豊かな自然、多様な文化、そして食という魅力的な地域資源を有する一方で、深刻な人口減少と高齢化、地域経済の低迷、担い手不足など、多くの課題に直面しています。全国に先駆けて人口減少・少子高齢化が進行しており、特に札幌市及びその近郊を除く地方圏においては、産業の衰退、医療・福祉サービスの低下、公共交通機関の維持困難、そして地域コミュニティの担い手不足など、深刻な状況にあります。これらの課題に対応するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域の実情を深く理解し、地域資源を最大限に活用し、新たな発想と行動力を持って主体的に課題解決に取り組むことができる人材が求められています。

地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究し解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指すと伺っております。地域創造学部は、まさにこのニーズに応えるための学部であると強く期待するものです。

地域創造学部の開設は、倶知安町が直面する課題を克服し、持続可能な地域社会を創造するための重要な一歩となると確信しております。北海道科学大学と地域社会の未来を担う人材育成に共に取り組んでいきたいと願っており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

令和８年１月 26 日

北海道科学大学
　学長　川上　　敬　様

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 北海道支部
支部長　今　日出人

北海道科学大学 地域創造学部 地域創造学科設置に関する要望書

日頃より、当協会の活動につきまして、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、貴学では、令和９年度より地域創造学部地域創造学科の開設を準備されている旨の説明をいただきました。

北海道は、豊かな自然、多様な文化、そして食という魅力的な地域資源を有する一方で、深刻な人口減少と高齢化、地域経済の低迷、担い手不足など、多くの課題に直面しています。我々建設コンサルタントは、長年、社会資本整備の技術的パートナーとして調査・設計等の職責を果たしてまいりましたが、近年の地域社会においては、インフラの老朽化対策に加え、住民との合意形成を通じたプロジェクトの推進や公共資産の最適管理といった、より高度なマネジメント能力が不可欠となっています。また、激甚化する自然災害への緊急対応を含め、地域の安全と生活基盤を守り抜くことは、我々の揺るぎない社会的使命です。こうした多角的な課題に対応し、北海道の未来を切り拓くためには、従来の技術的枠組みに留まることなく、地域の実情を深く洞察し、守るべき資源と新たな技術を融合させて主体的に解決策を導き出せる人材が、今まさに求められています。

地域創造学部においては、地域の特性や多様性の理解のもと、地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせ、資源の活用による地域の魅力を高めるための諸課題を追究し解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材の育成を目指すと伺っております。地域創造学部は、まさにこのニーズに応えるための学部であると強く期待するものです。

地域創造学部の開設は、北海道が直面する課題を克服し、持続可能な地域社会を創造するための重要な一歩となると確信しております。北海道科学大学と地域社会の未来を担う人材育成に共に取り組んでいきたいと願っており、本書をもって地域創造学部の設置を強く要望するものであります。

調査報告書（抜粋）－地域創造学部で学んだ卒業生の採用－

＜北海道科学大学の地域創造学部に関する質問事項＞

３．地域創造学部で養成する人材の必要性

北海道に所在する地域経済や社会を活性化させる取り組みを行う機関や組織等に対して、北海道科学大学の地域創造学部で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 130 件の約 93.8%にあたる 122 件が「必要性を感じる」と回答している。

問 3　地域創造学部で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	必要性を感じる	122	93.8
2	必要性を感じない	7	5.4
	未回答・不明	1	0.8
	合計	130	100.0

４．地域創造学部で学んだ卒業生の採用

北海道に所在する地域経済や社会を活性化させる取り組みを行う機関や組織等に対して、北海道科学大学の地域創造学部で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 130 件の約 78.5%にあたる 102 件が「採用したいと思う」と回答している。

問 4　地域創造学部で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	採用したいと思う	102	78.5
2	採用したいと思わない	26	20.0
	未回答・不明	2	1.5
	合計	130	100.0

５．地域創造学部で学んだ卒業生の採用人数

問 4 で、北海道科学大学の地域創造学部で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した関連機関等のうち、単年度当たりの卒業生の採用人数を「1 人」と回答したのは 25 件、「2 人」と回答したのは 6 件、「3 人以上」と回答したのは 3 件、「人数は未定」と回答したのは 68 件となっている。

問 5　地域創造学部で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1 人	25	24.5
2	2 人	6	5.9
3	3 人以上	3	2.9
4	人数は未定	68	66.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	102	100.0

６．地域創造学部で学んだ卒業生の採用人数 －クロス集計－

問３で、北海道科学大学の地域創造学部で養成する人材の必要性について「必要性を感じる」と回答した関連機関等で、問４で、北海道科学大学の地域創造学部で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した関連機関等のうち、問５で、単年度当りの卒業生の採用人数を「１人」と回答したのは25件、「2人」と回答したのは６件、「3人以上」と回答したのは３件、「人数は未定」と回答したのは67件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると113人となり、これらの採用人数からも北海道科学大学の地域創造学部で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような北海道に所在する地域経済や社会を活性化させる取り組みを行う一部の機関や組織等に限定した調査結果においても、北海道科学大学の地域創造学部で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については見通しがあると考えられる。

【クロス集計】 地域創造学部で学んだ卒業生の採用人数／問３から問５までの条件に合致するもの

No.	カテゴリ	件数／件	人数／人
1	必要性を感じる×採用したいと思う×１人	25	25
2	必要性を感じる×採用したいと思う×２人	6	12
3	必要性を感じる×採用したいと思う×３人	3	9
4	必要性を感じる×採用したいと思う×人数は未定	67	67
	合計	101	113

クロス集計する選択肢
＊問３「養成する人材の必要性」／必要性を感じる
＊問４「卒業生の採用意向」／採用したいと思う
＊問５「卒業生の採用人数」／１人・２人・３人以上・人数は未定

資料６

地域創造学部　教育課程構造図

・専門教育科目

<table>
<tr><td colspan="4">【専門研究科目】</td></tr>
<tr><td colspan="4">地域研究法　　地域創造研究</td></tr>
<tr><td colspan="4">【専門実践科目】</td></tr>
<tr><td>地域調査実習</td><td colspan="2">地域創造演習　　地域創造実習
現地調査（地域理解）　　現地調査（地域問題）</td><td>現地調査（地域資源）
現地調査（資源活用）</td></tr>
<tr><td colspan="4">【専門展開科目】</td></tr>
<tr><td colspan="2">イノベーション論　　デザインシンキング
広報広告論　　知的財産権
６次産業化論　　商品開発論　　流通販売論
ことづくり論　　地域ブランド論　　地域ビジネス論</td><td colspan="2">地域災害論　　地域防災論
住宅計画論　　公園緑地計画論
都市環境論　　地域景観論　　地域交通論
まちづくり論　　合意形成論　　都市計画論</td></tr>
<tr><td colspan="4">マーケティング論　　マーケティング調査　　マーケティング戦略</td></tr>
<tr><td colspan="4">【専門基幹科目】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域分析法
地域調査法</td><td>地方自治論
地域コミュニティ論</td><td>地域産業論　　地域企業論
地域活性論　　地方財政論</td><td rowspan="2">資源活用論
地域資源論</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域変動論</td></tr>
<tr><td colspan="4">【専門基礎科目】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域調査論</td><td colspan="3">地域問題論　　比較地域論</td></tr>
<tr><td>地域社会論　　地域文化論</td><td colspan="2">地域経済論</td></tr>
<tr><td colspan="4">【専門導入科目】</td></tr>
<tr><td colspan="4">社会学入門　　経済学入門
地域創造概論　　地方創生論</td></tr>
</table>

↑

【専門教育科目】

・「専門教育科目」は、専門の知識を教授するための体系的な教育課程の編成とするために、「専門導入科目」、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」、「専門実践科目」、「専門研究科目」の科目区分から編成する。

・「専門導入科目」は、専門分野の学修を始めるにあたり、その基礎となる知識や考え方を学ぶための科目を配置する。

・「専門基礎科目」は、地域を理解するための基軸となる地域に関する基礎的・基本的な知識を修得するための科目を配置する。

・「専門基幹科目」は、地域社会や地域経済に関する基本となる知識の理解と地域の資源を活用する上で基本となる地域の資源と活用に関する知識を修得するための科目を配置する。

・「専門展開科目」は、地域の魅力や価値の創造を展開する上で必要となる基礎的な知識や能力と関連する分野の知識を修得するための科目を配置する。

・「専門実践科目」は、講義や演習で修得した知識や技能等の定着を図るとともに、実践力や応用力を養うための科目を配置する。

・「専門研究科目」は、修得した知識、技能、態度などを総合的に活用し、課題を解決するための総合的な能力を養うための科目を配置する。

・基本教育科目

【修学基礎】					
修学基礎講座					
【情報活用】	**【課題探求】**	**【言語表現】**	**【人間基礎】**	**【自己実現】**	**【社会理解】**
情報通信技術Ⅰ 情報通信技術Ⅱ 統計分析法	問題解決法 創造思考法	日本語表現Ⅱ（文章） 日本語表現Ⅰ（口頭） 英語表現Ⅰ（基礎） 英語表現Ⅱ（応用） 英語表現Ⅲ（実践）	自己管理力の構築 人間関係力の構築	キャリア形成Ⅰ キャリア形成Ⅱ	心理と行動 健康と運動 民族と宗教 法律と憲法 政治と行政 経済と政策 安全と平和 外交と国益 自然と環境

↑

【基本教育科目】

「基本教育科目」は、幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と高い職業観、生涯にわたり自発的な学習に取り組む態度を涵養するために、「修学基礎力の養成」、「情報活用力の養成」、「課題探究力の養成」、「言語表現力の養成」、「人間基礎力の養成」、「自己実現力の養成」、「社会理解力の養成」の科目区分から編成する。

・「修学基礎力の養成」では、高等学校等から大学への円滑な移行を図り、大学での学びの効果を高めるための科目を配置する。
・「情報活用力の養成」では、社会生活や職業生活で必要となる汎用的技能として、情報と情報技術や情報手段を主体的に選択し、活用していくための資質と能力や数量的スキルを高めるための科目を配置する。
・「課題探究力の養成」では、社会生活や職業生活で必要となる汎用的技能として問題の解決に関する能力や問題に直面したときに、斬新かつ有意義な着想を生み出せる思考を高めるための科目を配置する。
・「言語表現力の養成」では、社会生活や職業生活で必要となる汎用的技能として、英語の音声言語による運用能力と日本語の音声言語と文字言語による運用能力を高めるための科目を配置する。
・「人間基礎力の養成」では、社会の一員として求められる態度や志向性として、自分自身を管理する能力や他者との良好な人間関係を構築する能力を高めるための科目を配置する。
・「自己実現力の養成」では、社会の一員として求められる態度や志向性として、理想の自分を目指して成長していく過程や考え方について理解するための科目を配置する。
・「社会理解力の養成」では、現代社会における人間や社会を取り巻く事象や諸課題に関する幅広い知識を修得するための科目を配置する。

資料７

地域創造学部　履修モデルA［基本／124単位］

○印：必修科目

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基本教育科目	修学基礎	○修学基礎講座 2								2
	情報活用	○情報通信技術Ⅰ 2	○情報通信技術Ⅱ 2	○統計分析法 2						6
	課題探求	○問題解決法 1				○創造思考法 1				2
	言語表現	○英語表現Ⅰ（基礎） 2	○英語表現Ⅱ（応用） 2	○英語表現Ⅲ（実践） 2						6
		○日本語表現Ⅰ（口頭） 2	○日本語表現Ⅱ（文章） 2							4
	人間基礎	○自己管理力の構築 1								1
		○人間関係力の構築 1								1
	自己実現	○キャリア形成Ⅰ 1				○キャリア形成Ⅱ 1				2
	社会理解	心理と行動 2	経済と政策 2	政治と行政 2	民族と宗教 2	健康と運動 2				10
						自然と環境 2				2
	小計	14	8	6	2	6	0	0	0	36
専門教育科目	専門導入	○地域創造概論 2								2
		○社会学入門 2								2
		○経済学入門 2	○地方創生論 2							4
	専門基礎		○地域社会論 2							2
			○地域文化論 2							2
			○地域経済論 2							2
			○地域調査論 2							2
			○地域問題論 2	○比較地域論 2						4
	専門基幹			○地域変動論 2						2
				○地域コミュニティ論 2						2
				○地域活性論 2	○地方自治論 2					4
				○地域調査法 2	○地域分析法 2					4
				○地域資源論 2	○資源活用論 2					4
					○地方財政論 2					2
					○地域産業論 2	○地域企業論 2				4
	専門展開			○マーケティング論 2	○マーケティング調査 2	○マーケティング戦略 2				6
					ことづくり論 2	地域ビジネス論 2				4
					地域ブランド論 2	6次産業化論 2	流通販売論 2	イノベーション論 2		8
						商品開発論 2	広報広告論 2	デザインシンキング 2		6
	専門実践		○現地調査（地域理解） 2	○現地調査（地域問題） 2						4
					○現地調査（地域資源） 2	○現地調査（資源活用） 2				4
					○地域調査実習 2					2
						○地域創造演習 2	○地域創造実習 4			6
	専門研究					○地域研究法 2				2
								○地域創造研究 4		4
	小計	6	14	16	20	16	8	4	4	88
合計		20	22	22	22	22	8	4	4	124

履修モデルA　地域理解のもと、地域の特産品や名産品などを活かした新商品やサービスなどの企画・開発、高付加価値化、販路拡大などを先導できる人材を養成するモデル

地域創造学部　履修モデルB［基本／124単位］

○印：必修科目

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基本教育科目	修学基礎	○修学基礎講座 2								2
	情報活用	○情報通信技術Ⅰ 2	○情報通信技術Ⅱ 2	○統計分析法 2						6
	課題探求	○問題解決法 1				○創造思考法 1				2
	言語表現	○英語表現Ⅰ（基礎） 2	○英語表現Ⅱ（応用） 2	○英語表現Ⅲ（実践） 2						6
		○日本語表現Ⅰ（口頭） 2	○日本語表現Ⅱ（文章） 2							4
	人間基礎	○自己管理力の構築 1								1
		○人間関係力の構築 1								1
	自己実現	○キャリア形成Ⅰ 1				○キャリア形成Ⅱ 1				2
	社会理解	法律と憲法 2	経済と政策 2	心理と行動 2	民族と宗教 2	安全と平和 2				10
						自然と環境 2				2
	小計	14	8	6	2	6	0	0	0	36
専門教育科目	専門導入	○地域創造概論 2								2
		○社会学入門 2								2
		○経済学入門 2	○地方創生論 2							4
	専門基礎		○地域社会論 2							2
			○地域文化論 2							2
			○地域経済論 2							2
			○地域調査論 2							2
			○地域問題論 2	○比較地域論 2						4
	専門基幹			○地域変動論 2						2
				○地域コミュニティ論 2						2
				○地域活性論 2	○地方自治論 2					4
				○地域調査法 2	○地域分析法 2					4
				○地域資源論 2	○資源活用論 2					4
					○地方財政論 2					2
					○地域産業論 2	○地域企業論 2				4
	専門展開			○マーケティング論 2	○マーケティング調査 2	○マーケティング戦略 2				6
					まちづくり論 2	都市計画論 2				4
					合意形成論 2	都市環境論 2	地域交通論 2	公園緑地計画論 2		8
						地域景観論 2	地域災害論 2	地域防災論 2		6
	専門実践		○現地調査（地域理解） 2	○現地調査（地域問題） 2						4
					○現地調査（地域資源） 2	○現地調査（資源活用） 2				4
					○地域調査実習 2					2
						○地域創造演習 2	○地域創造実習 4			6
	専門研究					○地域研究法 2				2
								○地域創造研究 4		4
	小計	6	14	16	20	16	8	4	4	88
合計		20	22	22	22	22	8	4	4	124

履修モデルB　地域理解のもと、まちの個性や特徴を形成している建造物や古いまちなみの保全や活用、空間や景観の有効的な利活用などを推進できる人材を養成するモデル

資料８

養成する人材像と３つの方針の関係性
（基本教育科目）

養成する人材像	卒業認定・学位授与の方針	教育課程編成・実施の方針	入学者受入の方針
幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と確かな職業観、生涯にわたり自発的な学習に取り組む態度を身に付けている人材	・社会生活や職業生活で必要となる汎用的技能や社会の一員として求められる態度や志向性と現代社会に関する幅広い知識を修得している。	・情報通信技術の活用や情報を分析する能力、問題を発見し解決する能力、英語と日本語による自らの意思や考えを表現し伝達する能力を高める科目を配置する。	・高等学校で履修した主要科目について、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。 ・自分の考えを口頭や文章で適切に表現でき、他者に対して的確に伝えることができる。
		・自らを律して行動できる自己管理力、他者と協調・協働して行動できる人間関係力、卒業後も自律・自立して学修できる自己実現力を涵養する科目を配置する。	・自分の考えを口頭や文章で適切に表現でき、他者に対して的確に伝えることができる。
		・現代社会を取り巻く人間や社会に関する事象の特性や意味の理解及び社会全体で抱えている人間や社会に関する諸課題への関心を高めるための科目を配置する。	・高等学校で履修した主要科目について、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。

養成する人材像と３つの方針の関係性

（専門教育科目）

養成する人材像	卒業認定・学位授与の方針	教育課程編成・実施の方針	入学者受入の方針
わが国の地域の構造や特性を理解する人材	・地域の概念や特性と地域の事象に関する知識の理解及び地域の実態を的確に捉えるために必要となる基礎的な知識と方法を修得している。	・地域創造を学ぶ目的や学び方の理解及び地域の現象や事象を理解するための基盤となる社会学と経済学の基礎的な概念と理論や考え方を理解するための科目を配置する。 ・地域社会や地域経済の構造や機能に関する知識の理解と地域における社会的・経済的な事象や特性と諸問題に関する知識と実態について理解するための科目を配置する。 ・調査活動の意義や役割について理解するとともに、地域調査を計画的かつ合理的に行うための知識や方法の理解とデータの分析について理解するための科目を配置する。	・地域振興に対する興味と関心を持ち、学部教育に対する学修目的と意欲を有している。 ・高等学校で履修した主要科目について、高等学校卒業相当の知識と技能を有している。
地域と地域の資源の在り方についての見方や考え方を働かせる人材	・地域の振興や活性化に資する地域に固有な資源の理解及びその資源の活用を総合的に展開するための知識と方法や実践知を修得している。	・地域に存在する資源の意味や内容と特徴に関する知識の理解とともに、資源の効果的な利用や活用について、具体的な事例と関連付けて理解するための科目を配置する。 ・新たな価値を創造するための分析や戦略に関する知識の理解と資源の価値や魅力を高めるための活動や取組みに関連する基礎的な知識を修得するための科目を配置する。	・地域振興に対する興味と関心を持ち、学部教育に対する学修目的と意欲を有している。
資源の活用による地域の魅力を高めるための諸活動の追求や解決する活動を通して、地域振興や地域活性化に貢献できる人材	・地域的な見方や考え方を働かせ、地域の資源の付加価値を高め、地域の魅力や活力を高める活動に必要な知識や方法と態度を修得している。	・地域の魅力を高める活動を体験的かつ総合的に理解するとともに、講義や演習等で学んだ知識を基礎として、実践活動に応用する能力を修得するための科目を配置する。 ・新たな価値の創造に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学修を通して、専門的な知識の深化と総合化を図るとともに創造的な態度を養うための科目を配置する。	・地域振興に対する興味と関心を持ち、学部教育に対する学修目的と意欲を有している。 ・自分の考えを口頭や文章で適切に表現でき、他者に対して的確に伝えることができる。

資料９

専門分野別　授業科目・基幹教員一覧

（地域理解に関する科目）

地域創造学部 地域創造学科　　（※）：オムニバス・共同（一部）

研究領域	調書番号	職　名	氏　　名 ＜保有学位＞	担当授業科目名	備　考
社会学分野	5	教　授	橋本行史 博士 （経営学）	地方自治論	
	7	教　授	牧野厚史 博士 （社会学）	地域調査論（※） 地域問題論／社会問題（※） 地域コミュニティ論	
	9	教　授	山本　努 博士 （文学）	社会学入門 地域社会論 地域調査論（※） 地域問題論／社会問題（※） 比較地域論／地域社会（※） 地域変動論／社会変動（※）	
経済学分野	3	教　授	板谷淳一 Ph.D in Economics （米国）	経済学入門 地域経済論 地域問題論／経済問題（※） 比較地域論／地域経済（※） 地域変動論／経済変動（※） 地方財政論	
	4	教　授	伊藤　一 Ph.D. in Business Administration （英国）	地域活性論	
	5	教　授	橋本行史 博士 （経営学）	地方創生論	
	11	准教授	坂井俊文 博士 （工学）	地域産業論（※） 地域企業論（※）	

資料10

卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針及び科目配置との関係

卒業認定・学位授与の方針	教育課程編成・実施の方針	授業科目
・社会生活や職業生活で必要となる汎用的技能や社会の一員として求められる態度や志向性と現代社会に関する幅広い知識を修得している。	・情報通信技術の活用や情報を分析する能力、問題を発見し解決する能力、英語と日本語による自らの意思や考えを表現し伝達する能力を高める科目を配置する。	情報通信技術Ⅰ、情報通信技術Ⅱ、統計分析法 問題解決法、創造思考法 英語表現Ⅰ（基礎）　英語表現Ⅱ（応用）　英語表現Ⅲ（実践） 日本語表現Ⅰ（口頭）　日本語表現Ⅱ（文章）
	・自らを律して行動できる自己管理力、他者と協調・協働して行動できる人間関係力、卒業後も自律・自立して学修できる自己実現力を涵養する科目を配置する。	自己管理力の構築 人間関係力の構築 キャリア形成Ⅰ　キャリア形成Ⅱ
	・現代社会を取り巻く人間や社会に関する事象の特性や意味の理解及び社会全体で抱えている人間や社会に関する諸課題への関心を高めるための科目を配置する。	心理と行動　健康と運動　民族と宗教 法律と憲法　政治と行政　経済と政策 安全と平和　外交と国益　自然と環境
・地域の概念や特性と地域の事象に関する知識の理解及び地域の実態を的確に捉えるために必要となる基礎的な知識と方法を修得している。	・地域創造を学ぶ目的や学び方の理解及び地域の現象や事象を理解するための基盤となる社会学と経済学の基礎的な概念と理論や考え方を理解するための科目を配置する。	地域創造概論 社会学入門 経済学入門
	・地域社会や地域経済の構造や機能に関する知識の理解と地域における社会的・経済的な事象や特性と諸問題に関する知識と実態について理解するための科目を配置する。	地域社会論、地域文化論、地域コミュニティ論、地方自治論 地域経済論、地方財政論、地域産業論、地域企業論 地方創生論、地域問題論、比較地域論、地域変動論、地域活性論 現地調査（地域理解）、現地調査（地域問題）
	・調査活動の意義や役割について理解するとともに、地域調査を計画的かつ合理的に行うための知識や方法の理解とデータの分析について理解するための科目を配置する。	地域調査論、地域調査法、地域調査実習 地域分析法

卒業認定・学位授与の方針	教育課程編成・実施の方針	授業科目
・地域の振興や活性化に資する地域に固有な資源の理解及びその資源の活用を総合的に展開するための知識と方法や実践知を修得している。	・地域に存在する資源の意味や内容と特徴に関する知識の理解とともに、資源の効果的な利用や活用について、具体的な事例と関連付けて理解するための科目を配置する。	地域資源論、現地調査（地域資源） 資源活用論、現地調査（資源活用）
	・新たな価値を創造するための分析や戦略に関する知識の理解と資源の価値や魅力を高めるための活動や取組みに関連する基礎的な知識を修得するための科目を配置する。	マーケティング論、マーケティング調査、マーケティング戦略 ことづくり論、地域ブランド論、地域ビジネス論、６次産業化論、 商品開発論、流通販売論、広報広告論、知的財産権、イノベーション論、 デザインシンキング まちづくり論、合意形成論、都市計画論、都市環境論、地域景観論、 地域交通論、住宅計画論、公園緑地計画論、地域災害論、地域防災論
・地域的な見方や考え方を働かせ、地域の資源の付加価値を高め、地域の魅力や活力を高める活動に必要な知識や方法と態度を修得している。	・地域の魅力を高める活動を体験的かつ総合的に理解するとともに、講義や演習等で学んだ知識を基礎として、実践活動に応用する能力を修得するための科目を配置する。	地域創造演習 地域創造実習
	・新たな価値の創造に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学修を通して、専門的な知識の深化と総合化を図るとともに創造的な態度を養うための科目を配置する。	地域研究法 地域創造研究

※下線：必修科目

資料11

主要授業科目一覧

（主要授業科目 33 科目）

「地域の仕組みや特性と問題を理解する能力」を育成するために必要となる主要授業科目	・社会学分野の主要授業科目 社会学入門 地域社会論 地域文化論 地域コミュニティ論 地方自治論 ・経済学分野の主要授業科目 経済学入門 地方創生論 地域経済論 地域活性論 地方財政論 地域産業論 地域企業論 ・両分野の教育内容を含む主要授業科目 地域創造概論 地域問題論 比較地域論 地域変動論 現地調査（地域理解） 現地調査（地域問題） 地域研究法
「地域の資料やデータを収集し分析する能力」を育成するために必要となる主要授業科目	地域調査論 地域調査法 地域分析法 地域調査実習
「地域に固有の資源の付加価値を高める能力」を育成するために必要となる主要授業科目	地域資源論 現地調査（地域資源） 資源活用論 現地調査（資源活用） マーケティング論 マーケティング調査 マーケティング戦略 地域創造演習 地域創造実習 地域創造研究

資料12

実習施設一覧

No.	実習施設名	所在地	受入可能 人　数
1	小樽市	北海道小樽市花園2丁目12番1号	10
2	網走市	北海道網走市南5条東1丁目10番地	4
3	石狩市	北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2	3
4	上富良野町	北海道空知郡上富良野町大町2丁目2番11号	2
5	猿払村	北海道宗谷郡猿払村鬼志別西町172番地1	5
6	幕別町	北海道中川郡幕別町本町130番地1	2
7	新ひだか町	北海道日高郡新ひだか町静内御幸町3丁目2番50号	10
8	根室市	北海道根室市常盤町2丁目27番地	1
9	倶知安町	北海道虻田郡倶知安町北1条東3丁目3	5
10	伊達市	北海道伊達市鹿島町20-1	5
11	当別町	北海道石狩郡当別町白樺町58-9	5
12	雨竜町	北海道雨竜郡雨竜町字フシコウリウ104番地	3
13	深川市	北海道深川市2条17-17	5
14	妹背牛町	北海道雨竜郡妹背牛町字妹背牛5200番地	3
15	奈井江町	北海道空知郡奈井江町字奈井江11番地	2
16	京極町	北海道虻田郡京極町字京極527番地	4
17	剣淵町	北海道上川郡剣淵町仲町37-1	10
18	上砂川町	北海道空知郡上砂川町中央北1条5丁目1-7	10
19	北竜町	北海道雨竜郡北竜町字和11－１	10
20	稚内市	北海道稚内市中央3丁目2番1号	5
21	音威子府村	北海道中川郡音威子府村字音威子府444-1	4
22	池田町	北海道中川郡池田町字西1条7丁目11番地	10
		合計	118

資料13

基 幹 教 員 一 覧

地域創造学部 地域創造学科　　（※）：オムニバス・共同（一部）

研究領域	調書番号	職　名	氏　　名（年齢） （就任予定年月）	担当授業科目名	保有学位
社会学分野	7	教　授	牧野厚史（　） （令和９年９月）	地域調査論（※） 地域問題論（※） 地域コミュニティ論 地域調査法（※） 地域分析法（※） イノベーション論（※） 都市環境論（※） 地域災害論（※） 地域調査実習 地域創造研究	博士 （社会学）
	9	教　授	山本　努（　） （令和９年４月）	地域創造概論（※） 社会学入門 地域社会論 地域調査論（※） 地域問題論（※） 比較地域論（※） 地域変動論（※） 地域調査法（※） 現地調査（地域理解） 現地調査（地域問題） 地域創造研究	博士 （文学）
	12	助　教	横山貴志（　） （令和９年９月）	資源活用論（※） 現地調査（地域理解） 現地調査（地域問題） 現地調査（地域資源） 現地調査（資源活用） 地域創造演習 地域創造実習	修士 （事業構想学）

経済学分野	3	教　授	板谷淳一（　） （令和９年４月）	地域創造概論（※） 経済学入門 地域経済論 地域問題論（※） 比較地域論（※） 地域変動論（※） 地方財政論 地域創造研究	Ph.D in Economics （米国）
	4	教　授	伊藤　一（　） （令和 10 年４月）	地域活性論 流通販売論 現地調査（地域問題） 地域創造研究	Ph.D. in Business Administration （英国）
	5	教　授	橋本行史（　） （令和９年４月）	地域創造概論（※） 地方創生論 地方自治論 地域資源論（※） 資源活用論（※） 現地調査（地域資源） 現地調査（資源活用） 地域創造演習 地域創造実習 地域研究法 地域創造研究	博士 （経営学）
	10	教　授	若林靖永（　） （令和 10 年４月）	マーケティング論 マーケティング調査 マーケティング戦略 ことづくり論（※） 地域ブランド論（※） 地域創造研究	博士 （経済学）
	11	准教授	坂井俊文（　） （令和９年９月）	地域産業論（※） 地域企業論（※） 資源活用論（※） ことづくり論（※） イノベーション論（※） 現地調査（地域理解） 現地調査（地域問題） 現地調査（地域資源） 現地調査（資源活用） 地域創造演習 地域創造実習 地域創造研究	博士 （工学）

その他関連分野	1	教　授	梶谷　崇（　） （令和９年９月）	地域文化論（※） 地域資源論（※） 資源活用論（※） 現地調査（地域理解） 現地調査（地域資源） 現地調査（資源活用） 地域創造演習 地域創造実習 地域創造研究	博士 （文学）
	2	教　授	石田眞二（　） （令和９年４月）	地域創造概論（※） まちづくり論（※） 都市計画論（※） 地域景観論（※） 地域交通論（※）	博士 （工学）
	6	教　授	細川和彦（　） （令和９年９月）	地域災害論（※） 地域防災論（※） 現地調査（地域理解） 地域創造演習 地域創造実習 地域創造研究	博士 （工学）
	8	教　授	道尾淳子（　） （令和９年９月）	地域資源論（※） 資源活用論（※） まちづくり論（※） 都市環境論（※） 地域景観論（※） 現地調査（地域理解） 現地調査（地域資源） 現地調査（資源活用） 地域創造演習 地域創造実習 地域創造研究	博士 （芸術工学）

主要授業科目　担当基幹教員一覧

（主要授業科目 33 科目）

	主要授業科目	担当基幹教員
「地域の仕組みや特性と問題を理解する能力」を育成するために必要となる主要授業科目	社会学入門	山本努
	地域社会論	山本努
	地域文化論	梶谷崇
	地域コミュニティ論	牧野厚史
	地方自治論	橋本行史
	経済学入門	板谷淳一
	地方創生論	橋本行史
	地域経済論	板谷淳一
	地域活性論	伊藤一
	地方財政論	板谷淳一
	地域産業論	坂井俊文
	地域企業論	坂井俊文
	地域創造概論	石田眞二／板谷淳一／橋本行史／山本努
	地域問題論	板谷淳一／牧野厚史／山本努
	比較地域論	板谷淳一／山本努
	地域変動論	板谷淳一／山本努
	現地調査（地域理解）	梶谷崇／細川和彦／道尾淳子／山本努／坂井俊文／横山貴志
	現地調査（地域問題）	伊藤一／山本努／坂井俊文／横山貴志
	地域研究法	橋本行史
「地域の資料やデータを収集し分析する能力」を育成するために必要となる主要授業科目	地域調査論	牧野厚史／山本努
	地域調査法	牧野厚史／山本努
	地域分析法	牧野厚史
	地域調査実習	牧野厚史
「地域に固有の資源の付加価値を高める能力」を育成するために必要となる主要授業科目	地域資源論	梶谷崇／橋本行史／道尾淳子
	現地調査（地域資源）	梶谷崇／橋本行史／道尾淳子／坂井俊文／横山貴志
	資源活用論	梶谷崇／橋本行史／道尾淳子／坂井俊文／横山貴志
	現地調査（資源活用）	梶谷崇／橋本行史／道尾淳子／坂井俊文／横山貴志
	マーケティング論	若林靖永
	マーケティング調査	若林靖永
	マーケティング戦略	若林靖永
	地域創造演習	梶谷崇／橋本行史／細川和彦／道尾淳子／坂井俊文／横山貴志
	地域創造実習	梶谷崇／橋本行史／細川和彦／道尾淳子／坂井俊文／横山貴志
	地域創造研究	梶谷崇／板谷淳一／伊藤一／橋本行史／細川和彦／牧野厚史／道尾淳子／山本努／若林靖永／坂井俊文

学校法人北海道科学大学定年規程

（目　的）

第１条　この規程は、学校法人北海道科学大学（以下「法人」という。）就業規則第30条の規定に基づき、職員の定年に関し必要な事項を定める。

（定　年）

第２条　職員の定年は次のとおりとする。

（１）大学の教授・准教授・講師及び助教　　63歳

（２）高校の校長・副校長・教頭・教諭・養護教諭・助教諭・養護助教諭及び実習助手　63 歳

（３）前２号以外の職員　60 歳

２　定年による退職の日は、定年に達した日の属する年度の末日とする。

（定年退職者の再任用）

第３条　前条に規定する定年退職者のうち、本人が引続き勤務することを希望する場合は、再任用することができる。

２　再任用に関する事項は、別に定める。

（適用除外）

第４条　この規程は、学長その他の職にある職員で理事長において法人の運営上特に必要と認めた職員には適用しない。

（規程の改廃）

第５条　この規程の改廃は、常任理事会の議を経て理事長が決定する。

附　則

１　この規程は、昭和59年４月１日から施行する。

２　昭和51年４月１日から施行の「停年職員再雇用に関する規程」及び「職員再雇用等に関する審査基準」はこれを廃止する。

３　昭和51年４月１日から施行の「特別職員任用規程」及び「嘱託職員任用規程」はこれを廃止する。

この規程は、昭和61年10月１日から施行する。

この規程は、平成７年４月１日から施行する。

この規程は、平成18年４月１日から施行する。ただし、第３条第１項中「本人が引続き勤務することを希望する場合は」とあるのを大学の教員（教授、助教授、講師）で平成19年３月31日、平成20年３月31日、平成21年３月31日及び平成22年３月31日の定年退職者は、「学園の運営上必要と認められる場合は、所属長の上申により理事長の承認を得て」と読み替えて適用する。

１　この規程は、平成19年４月１日から施行する。

２　第３条第１項中「本人が引続き勤務することを希望する場合は」とあるのを大学の教員（教

授、准教授、講師、助教）で平成20年３月31日、平成21年３月31日及び平成22年３月31日の定年退職者は、「学園の運営上必要と認められる場合は、所属長の上申により理事長の承認を得て」と読み替えて適用する。

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

この規程は、2025年４月１日から施行する。

学校法人北海道科学大学定年退職者の再任用に関する規程

（目　的）

第１条　この規程は、学校法人北海道科学大学（以下「法人」という。）定年規程第３条の規定に基づき、定年退職者の再任用に関し必要な事項を定める。

（定　義）

第２条　この規程において「再任用」とは、法人定年規程第２条に定める定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）に退職し、定年退職日の翌日に改めて法人に採用する制度をいう。

（身　分）

第３条　再任用者の身分は、特任職員とする。

（再任用基準）

第４条　再任用することができる者は、定年退職後も引き続き勤務することを希望する職員とする。

（再任用手続）

第５条　再任用を希望する職員は、定年退職年度の８月末日までに別に定める「再任用願」を所属長を経て、理事長に提出しなければならない。

２　前項の願出を行った職員について、その申出時において前条に規定する再任用基準を満たす職員については、10月末日までに再任用の内定を通知する。ただし、当該職員について、定年退職日までの間に前条の基準を満たさないこととなった場合は、その内定を取り消すものとする。

３　定年退職日までに再任用の内定を取り消されなかった職員については、所定の手続きを経て再任用するものとする。

（再任用後の職務等）

第６条　再任用後の職種及び職名は、別表に掲げる職種及び職名から任命し、その職務を行う。

２　前項の規定にかかわらず、理事長において法人の運営上特に必要と認めた場合は、別表以外の職名等に任命することができるものとする。

（再任用後の処遇）

第７条　再任用後の処遇は、特任職員の任用に関する規程による。

（規程の改廃）

第８条　この規程の改廃は、常任理事会の議を経て理事長が決定する。

附　則

１　この規程は、平成18年４月１日から施行し、平成19年３月31日の定年退職者から適用する。

２　第６条第２項中「引続き勤務を希望する者については」とあるのを大学の教員（教授、助教授、講師）で平成19年３月31日、平成20年３月31日、平成21年３月31日及び平成22年３月31日の定年退職者については「引続き法人の運営上必要と認められる者については、所属長の上申により理事長の承認を得て」に、「65歳」とあるのを大学の教員（教授、助教授、講師）については平成23年３月31日及び平成24年３月31日の定年退職者は「64歳」、その他の職員については、平成19年３月31日の定年退職者は「63歳」、平成20年３月31日及び平成21年３月31日の定年退職者は「64歳」と読み替えて適用する。

３　前項前段の規定を適用する者は、第４条及び第５条の規定は適用しない。

４　この規程は、次の各号に掲げる者については、平成19年４月１日から適用する。ただし、第４条、第５条及び第６条第２項の規定は適用しない。

（１）平成18年度特任職員として在職する者で、平成19年度において更新する者

（２）法人の職員以外の者で、定年規程第２条に規定する定年を超えて採用する者

５　平成７年４月１日から施行の「特任職員の任用に関する内規」は、平成19年３月31日をもってこれを廃止する。

１　この規程は、平成19年４月１日から施行する。

２　第６条第２項中「引続き勤務を希望する者については」とあるのを大学の教員（教授、准教授、講師、助教）で平成20年３月31日、平成21年３月31日及び平成22年３月31日の定年退職者については「引続き法人の運営上必要と認められる者については、所属長の上申により理事長の承認を得て」に、「65歳」とあるのを大学の教員（教授、准教授、講師、助教）については平成23年３月31日及び平成24年３月31日の定年退職者は「64歳」、その他の職員については、平成20年３月31日及び平成21年３月31日の定年退職者は「64歳」と読み替えて適用する。

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

この規程は、平成25年４月１日から施行する。

この規程は、平成26年４月１日から施行する。ただし、施行日の前日において、特任職員となっている職員については、なお従前の例によるものとする。

この規程は、平成30年４月１日から施行する。

この規程は、2022年４月１日から施行する。

この規程は、2025年４月１日から施行する。

別表

職種及び職名

所　　属	職　　種	職　　名
大学	教育職	教授、准教授、講師、助教、助手
	教育系技術職	技師
高校	教育職	教諭
	教育系技術職	技師
各校共通	事務職	主任、主事
	事務系技術職	技師

学校法人北海道科学大学特任職員の任用に関する規程

（目　的）

第１条　この規程は、学校法人北海道科学大学（以下「法人」という。）における特任職員の任用に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

（定　義）

第２条　特任職員とは次のいずれかの者をいう。

（１）法人定年退職者の再任用に関する規程に基づき、再任用された者（以下「再任用者」という。）

（２）法人定年規程第２条に定める定年による退職の日を超えた後に法人に採用された者（以下「特任採用者」という。）

（３）法人就業規則第２章第５節（定年）、第４章（勤務）及び第５章（給与）を適用せず、個別に定め採用された者（以下「特例採用者」という。）

（任用手続等）

第３条　特任採用者及び特例採用者の選考方法及び任用手続は、原則として専任の教職員と同様とする。

２　再任用者の任用手続は、定年退職者の再任用に関する規程によるものとする。

（雇用契約期間）

第４条　特任職員の雇用契約期間は、１年以内とし、その満了日は当該年度の末日以前の日とする。

２　雇用契約期間は、労働契約書において定める。

３　前項の雇用契約は、更新することができるものとする。

４　採用後、６か月間は試用期間とする。ただし、再任用者及び前項により雇用契約を更新した場合は、試用期間を設けないものとする。

５　雇用契約を更新する場合における更新後の雇用契約期間は、１年を超えない範囲内とする。ただし、その雇用契約期間は、65歳に達した日の属する年度の末日を超えることができない。

６　前項ただし書の規定にかかわらず、理事長において法人の運営上特に必要と認めた者は、前項の年齢に達した日の属する年度の末日を超えて80歳に達した日の属する年度の末日を限度として更新することができる。

７　雇用契約の更新をしない場合は、雇用契約期間満了日の30日前までに当該職員に通知する。

（雇用契約の更新可否）

第５条　特任採用者及び特例採用者の雇用契約を更新する場合の可否は、次の各号により判断し決定する。

（１）雇用契約期間満了時の担当業務量

（２）当該職員の能力、勤務成績及び勤務態度等

（３）当該設置校の運営状況
（４）法人の経営状況

２　再任用者のうち、当該雇用契約の終了時において、65歳に達していない者が、雇用契約の更新を希望する場合は、前項にかかわらず雇用契約を更新する。

（無期転換）

第６条　法人における有期の雇用契約期間を通算した期間（以下「通算雇用契約期間」という）が５年を超える契約を締結した特任採用者及び特例採用者から期間の定めのない雇用契約への転換の申込みがあった場合は、申込みのあった雇用契約の終了日の翌日から期間の定めのない雇用契約に転換するものする。なお、通算雇用契約期間の算出方法は、労働契約法第18条及びその関連法令に基づくものとする

２　前項により期間の定めのない雇用契約になった者の定年年齢は、期間の定めのない雇用契約に転換した日の年齢に応じて、次の各号のとおりとする。なお、定年年齢に達した年度の末日を定年退職日とする。

（１）65歳未満の者　定年年齢65歳
（２）65歳以上68歳未満の者　定年年齢68歳
（３）68歳以上71歳未満の者　定年年齢71歳
（４）71歳以上74歳未満の者　定年年齢74歳
（５）74歳以上77歳未満の者　定年年齢77歳
（６）77歳以上80歳未満の者　定年年齢80歳

（給　与）

第７条　特任職員の給与は、給料と諸手当とする。

２　理事長特別補佐、参与及び再任用役職者給与規程第２条に定める役職者の給与については、別に定める。

３　給料月額は、別表に定める額とする。ただし、当該特任職員の年間所定勤務時間が、法人就業規則に基に算出された年間所定勤務時間と比べ差異がある場合は、差異相当の調整を行うことができる。

４　前項の給料月額は、昇給はしないものとする。ただし、給与規程の改正が行われた場合は、それに準じて改定を行うことができるものとする。

５　諸手当は、給与規程を準用する。ただし、調整手当、扶養手当、住居手当、期末手当、勤勉手当、寒冷地手当、初任給調整手当、義務教育等教員特別手当及び教職調整手当は支給しないものとする。

（退職金）

第８条　退職金は支給しないものとする。ただし、雇用契約書等において個別に契約している場合は、当該契約による。

（就業規則等の適用）

第９条　この規程及び労働契約書に規定するもの以外は、次の各号に掲げるものを除き就業規

則及び関連規程を適用する。

（１）就業規則第30条（定年）

（２）就業規則第30条の２（選択定年）

（３）就業規則第69条（退職手当）

（事務所管）

第10条　この規程に関する事務の所管は、総務部教職員課とする。

（規程の改廃）

第11条　この規程の改廃は、常任理事会の議を経て理事長が決定する。

附　則

この規程は、2025年４月１日から施行する。

別表 1

給料月額

所　属	職　名	給料月額
大学	教授	541,700円
	准教授	375,000円
	講師	333,400円
	助教	316,700円
	助手	291,700円
	技師（教育系）	291,700円
高校	教諭	375,000円
	技師（教育系）	291,700円
各校共通	課長、事務長、副室長	375,000円
	主任、課長補佐	316,700円
	主事	291,700円
	技師（事務系）	291,700円

※表に記載された以外の職名についてはその都度決定

資料18

定年を延長する基幹教員の補充計画

	令和 12 年度（完成年度）末
退職予定	・開設時点で定年年齢を超え、「定年退職者の再任用に関する規程」により雇用している教授 6 名が退職予定。 【社会学分野】 ・山本努 ・牧野厚史 【経済学分野】 ・橋本行史 ・板谷淳一 ・伊藤一 ・若林靖永

	令和 13 年 4 月
採用予定	・公募等により、山本努の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、社会学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。 ・公募等により、牧野厚史の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、社会学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。 ・公募等により、橋本行史の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、経済学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。 ・公募等により、板谷淳一の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、経済学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。 ・公募等により、伊藤一の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、経済学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。 ・公募等により、若林靖永の後任として、博士の学位、大学等における教育歴、経済学分野に関する研究実績を有する教授を採用する。

資料19

教育研究実施組織編制の将来構想

（基幹教員の採用計画）

採用予定	令和 9 年度～令和 12 年度（完成年度）末
	・令和 10 年度末までに、公募等により、博士又は修士の学位、大学等における教育歴、専門教育科目を担当するに足る研究業績を有する若手の基幹教員 1 人を採用する。 ・令和 11 年度末までに、公募等により、博士又は修士の学位、大学等における教育歴、専門教育科目を担当するに足る研究業績を有する若手の基幹教員 1 人を採用する。

資料21

令和4年4月1日 施行　　現在施行

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（令和三年文部科学省令第十四号）

Law RevisionID:416M60000080020_20220401_503M60000080014

平成十六年文部科学省令第二十号

高等学校設置基準

第四章　施設及び設備

（校舎の面積）

第十三条　校舎の面積は、法令に特別の定めがある場合を除き、全日制の課程若しくは定時制の課程の別又は学科の種類にかかわらず、次の表に定める面積以上とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

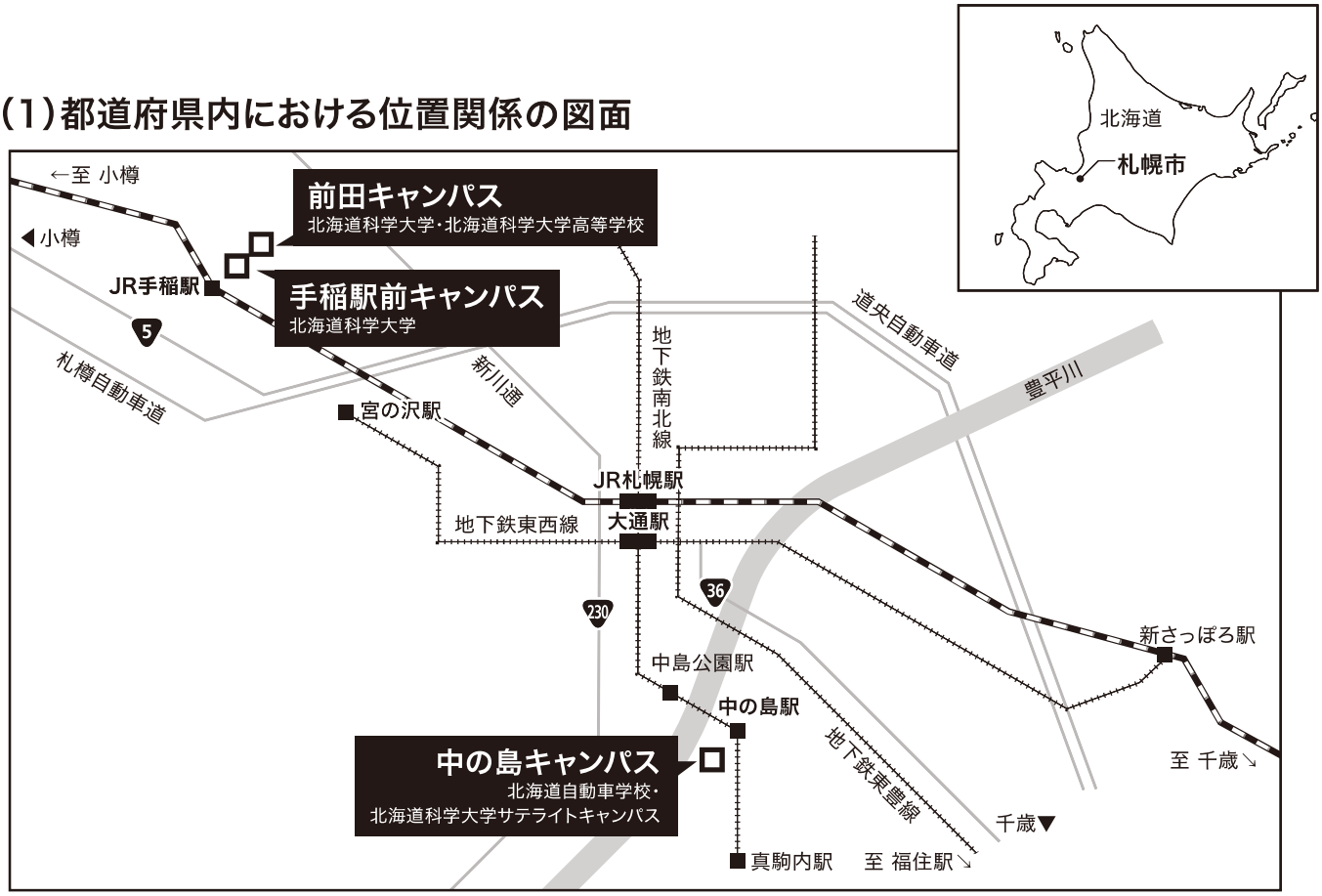
収容定員	面積（平方メートル）
一二〇人以下	１２００
一二一人以上四八〇人以下	１２００＋６×（収容定員－１２０）
四八一人以上	３３６０＋４×（収容定員－４８０）

資料22

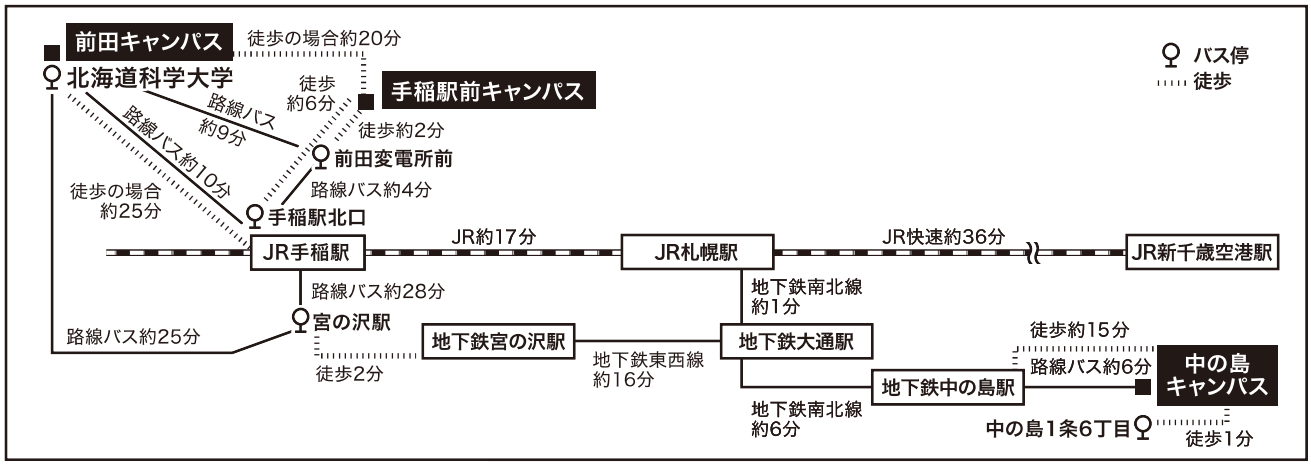
校地校舎等の図面

所在地：（手稲駅前キャンパス）札幌市手稲区前田2条12丁目361-24（地域創造学部使用）
（前田キャンパス）　札幌市手稲区前田7条15丁目4-1（地域創造学部使用）
（中の島キャンパス）　札幌市豊平区中の島2条6丁目2-4

（1）都道府県内における位置関係の図面



（2）最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

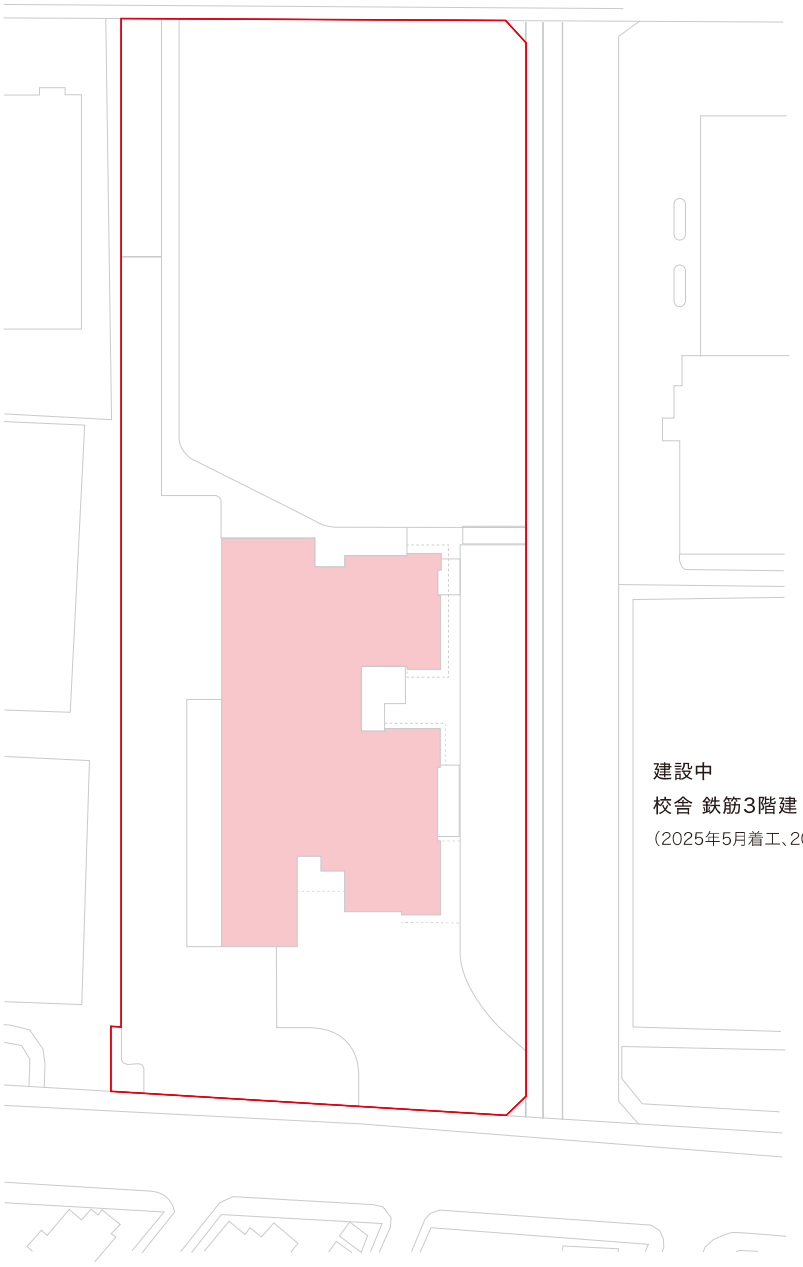




- JR手稲駅　→　手稲駅前キャンパス
  徒歩約6分
- JR手稲駅　→　前田キャンパス
  徒歩約25分、バス約10分
- 手稲駅前キャンパス　→　前田キャンパス
  徒歩約20分、バス約9分

(3)校舎・運動場等の配置図(手稲駅前キャンパス)

枠は運動場敷地　枠は校舎等敷地
枠は不算入校地



建設中
校舎 鉄筋3階建 4,360㎡
(2025年5月着工、2026年12月完成予定)

N

0　50　100　200M

北海道科学大学 校地
所在地　北海道札幌市
所　有　12,901㎡

北海道科学大学の専用　北海道科学大学高校の専用　北海道科学大学と北海道科学大学高校の共用　不算入校舎面積

校舎・運動場等の配置図（前田キャンパス）



①4号館
②7号館
③8号館
④A棟（講義棟）
⑤B棟（薬学部棟）
⑥C棟（保健医療学部棟）
⑦D棟（工学部西棟）
⑧E棟（中央棟）
⑨F棟（工学部東棟）
⑩G棟（講義棟）
⑪R1棟（保健医療学部 別棟）
⑫R2棟（共同実験棟）
⑬R3棟（工学部実験棟）
⑭R4棟（工学部実験棟）
⑮R5棟
⑯R6棟（JITAN PARK）
⑰100周年記念会館（図書館）
⑱体育館
⑲HITプラザ（食堂棟）
⑳クラブハウスA
㉑クラブハウスB

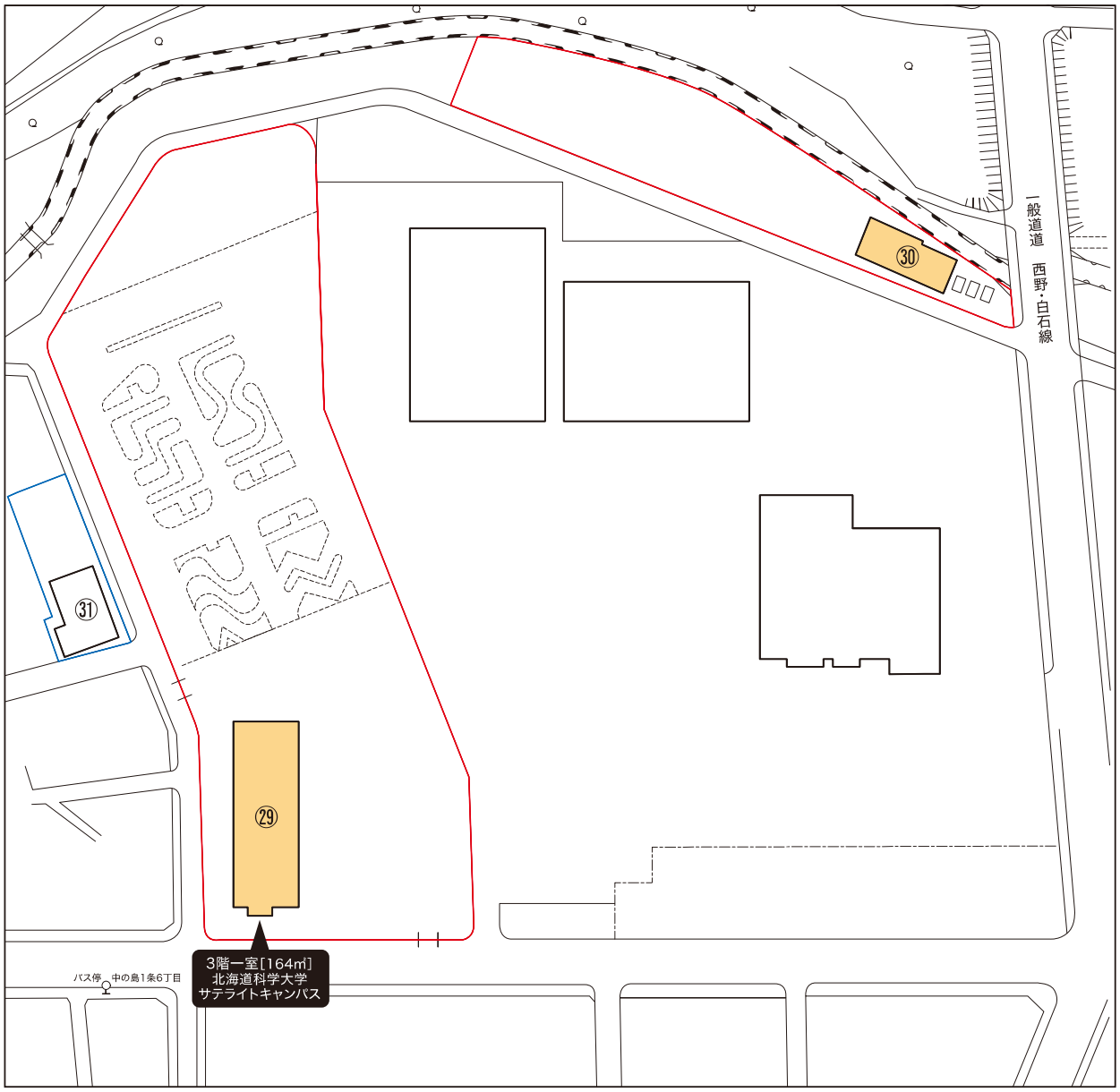
㉒－(1)、(2) 車庫
㉓－(1)、(2) バス待合所
㉔熱源棟
㉕－(1)、(2)車庫
㉖倉庫
㉗協学会倉庫
㉘高校

北海道科学大学の専用　北海道科学大学高校の専用　北海道科学大学と北海道科学大学高校の共用　不算入校舎面積

校舎・運動場等の配置図（中の島キャンパス）

㉙北海道自動車学校 校舎
㉚車庫
㉛倉庫

枠はその他の校地　枠は校舎等敷地　枠は不算入校地
※校地・校舎等建物面積一覧（5頁）参照



北海道自動車学校専用　不算入校舎面積

図書購入計画

NO.	NO.	タイトル
1	1(和書)	日本文明論と地域主義の実践
2	2(和書)	基本から学ぶ地域探究論 (MINERVA TEXT LIBRARY 71)
3	3(和書)	今こそ学ぼう地理の基本: 防災編
4	4(和書)	地図とデータで見る現代都市の世界ハンドブック
5	5(和書)	論文から学ぶ地域調査: 地域について卒論・レポートを書く人のためのガイドブック
6	6(和書)	都市空間の維持と高齢化: 拡大団塊の世代と住宅地空間の変容
7	7(和書)	住まなくなっても守りたい: 元住民たちの想い
8	8(和書)	マニア流!まちを楽しむ「別視点」入門
9	9(和書)	別日本で、いい。: 近江ARSいないいないばあBOOK
10	10(和書)	地域研究の境界: キーワードで読み解く現在地 (広島市立大学国際学部叢書 14)
11	11(和書)	地域研究へのアプローチ: グローバル・サウスから読み解く世界情勢
12	12(和書)	地方のローカル・ガバナンス: 多元的アクターの協働空間
13	13(和書)	社会調査が変える自治体政策の未来:「県民・市民生活実態調査」の方法と実践
14	14(和書)	公務員のためのマーケティング講座: 成果を最大化する政策・施策・事業づくり
15	15(和書)	図解よくわかる地方自治のしくみ, 第7次改訂版
16	16(和書)	協働を活かす“アウトカム重視”のチーム対話: 全員で創り上げる多様な意見がかみ合い、深まる対話の進め方
17	17(和書)	地方創生: 失われた十年とこれから
18	18(和書)	政策の“解”を探る: スポーツ、地域、政治をめぐる連鎖の思考
19	19(和書)	人口半減ショック地域の新戦略: 賢く縮み乗り越える
20	20(和書)	持続可能なまちづくりとSDGs: 地域の脱炭素化、地域内グリーン経済循環、女性参画・地域共生社会を目指して
21	21(和書)	地方自治, 新2版 (ホーンブック)
22	22(和書)	コロナ後の地方自治
23	23(和書)	地方自治基礎理論の探求: 宮崎伸光の自治体学をめぐって (法政大学現代法研究所叢書 56)
24	24(和書)	遠野カッパの独り言
25	25(和書)	広島とヒロシマ
26	26(和書)	復帰50年の沖縄世論 (筑摩選書 0306)
27	27(和書)	大学生が伝えたい非正規公務員の真実: 現場から見る課題と未来
28	28(和書)	自治体アンケート調査ハンドブック: 企画・実施・活用のノウハウ
29	29(和書)	魅せる!ふるさと納税: 返礼品でPRせよ
30	30(和書)	コンヴィヴィアル・シティ: 生き生きした自律協生の地域をつくる
31	31(和書)	数字とファクトから読み解く地方移住プロモーション: Urban-Rural Migration Promotion
32	32(和書)	新・共生時代の地域づくり論
33	33(和書)	政府規制と地方創生: コミュニティの活性化に向けた提言
34	34(和書)	「ウェルビーイングなまち」を育てるプロモーション: あなたのまちでも使える事例と分析
35	35(和書)	「地域の価値」とは何か: 理論・事例・政策
36	36(和書)	新データで読む地域再生:「人が集まる県・市町村」はどこが違うのか
37	37(和書)	地方消滅からの脱却: 持続可能な地域をめざして
38	38(和書)	持続可能な地域社会の形成に向けた自治体・企業・組織・市民の関わりとつながり: SDGs未来都市に注目して (専修大学商学研究所叢書 24)
39	39(和書)	まちのえき: 歩いて行ける拠点づくり
40	40(和書)	ギリギリ公務員福間敏
41	41(和書)	まちは暮らしでつくられる: 神山に移り住んだ彼女たち
42	42(和書)	九州地域学, 改訂版
43	43(和書)	都市とアートとイノベーション: 創造性とライフスタイルが描く都市未来
44	44(和書)	〈実践〉自治体まちづくり学: まちづくり人材の育成を目指して
45	45(和書)	都市の経営学
46	46(和書)	自治会、町内会等法人化の手引, 第4次改訂版
47	47(和書)	女子高生ですが、自治会長です。
48	48(和書)	あそびの生まれる時:「お客様」時代の地域活動コーディネーション (いきする本だな 4)
49	49(和書)	コミュニティデザインの現代史: まちづくりの仕事を巡る往復書簡
50	50(和書)	私発協働のまちづくり: 私からはじまる子どもを育む地域活動
51	51(和書)	ローカルプレイヤーの教室: 地域の中であなたの「したい」を「できる」に変える
52	52(和書)	元気な町内会のつくり方: 10の処方箋と80の実践事例
53	53(和書)	住民投票運動とローカルレジーム: 新潟県巻町と根源的民主主義の細道,1994-2004, 増補第2版

NO.	NO.	タイトル
54	54(和書)	沖縄的共同性の構築と継承 (シリーズ沖縄の地域自治組織 2)
55	55(和書)	面識経済: 資本主義社会で人生を愉しむためのコミュニティ論
56	56(和書)	マクロ経済学と地域経済分析
57	57(和書)	北陸の強みを引き出す地域資源
58	58(和書)	東南アジアにおける国家のリスケーリング: 都市研究と地域研究との対話
59	59(和書)	歩いて読みとく地域経済: 地域の営みから考えるまち歩き入門
60	60(和書)	地域経済論入門, 改訂版
61	61(和書)	市区町村経済を知る: データ分析基礎から応用まで
62	62(和書)	都市の衰退と再生: URBAN DECLINE AND REGENERATION (日本交通政策研究会研究双書 38)
63	63(和書)	ポスト資本主義時代の地域主義: 草の根の価値創造の実践
64	64(和書)	「地域」の学び方: 経済・社会を身近に考えよう
65	65(和書)	基礎から学ぶ国際経済と地域経済, 第2版
66	66(和書)	放置資産がコミュニティを毀損する: 地域社会に放置された家屋・農地・山林をどう管理するのか
67	67(和書)	地域を支え,地域を守る責任経営: CSR・SDGs時代の中小企業経営と事業承継
68	68(和書)	日本と韓国の地域ファミリー企業のマネジメント比較: 創業から成長、第二の創業まで 上
69	69(和書)	日本と韓国の地域ファミリー企業のマネジメント比較: 下 アントレプレナーシップと地域企業のイノベーション
70	70(和書)	地域発エクセレント・カンパニー: 地域を超えて地域に貢献する「在地超地企業」
71	71(和書)	ファミリービジネス成功の秘訣: 地域との共存による事業承継
72	72(和書)	伝えたい、未来を創る会社: 社会を変え、人を幸せにする会社“未来創造企業”
73	73(和書)	もう価格で闘わない: 非価格経営を実現した24社の取り組み
74	74(和書)	アフターコロナを生きる中小企業者の挑戦
75	75(和書)	VUCA時代に挑む中小企業: まいど教授が注目する16社の事例と提言
76	76(和書)	科学技術の進展と中小企業: 現状と研究の射程 (日本中小企業学会論集 43)
77	77(和書)	事例イノベーションで成長する中小企業: 事業継続の秘訣はイノベーションにあり!
78	78(和書)	地方を救う官民共創ビジネス: 地域発イノベーションの実践術
79	79(和書)	市民的コモンズとは何か: 理論と実践者との対話 (MINERVA社会学叢書 71)
80	80(和書)	地域コミュニティ支援が拓く協働型社会: 地方から発信する中間支援の新展開
81	81(和書)	大規模災害リスクと地域企業の事業継続計画: 中小企業の強靱化と地域金融機関による支援
82	82(和書)	破壊なき市場創造の時代: これからのイノベーションを実現する (Harvard Business Review Press)
83	83(和書)	実学一体経営戦略論: Management strategy theory
84	84(和書)	グラフィック経営戦略論 (グラフィック経営学ライブラリ 3)
85	85(和書)	ビジネスエコシステム: 概念の理解からデザインの実践まで
86	86(和書)	経営戦略集中講義
87	87(和書)	もうけの仕組み: ビジネスモデル大図鑑
88	88(和書)	二兎を追う経営: トレードオフからの脱却
89	89(和書)	経営は無理をせよ、無茶はするな: オーバーエクステンション戦略のすすめ
90	90(和書)	システム思考がモノ・コトづくりを変える: デジタルトランスフォーメーションを成功に導く思考法
91	91(和書)	「円」より「縁」: 地域通貨が示す新たな選択
92	92(和書)	独立型出資構想と地域金融機関の役割: 地方創生を支える「コア企業」の未来
93	93(和書)	地域金融機関による事業承継支援と信用保証制度: 地域企業の発展に貢献できる地域金融を目指して
94	94(和書)	地方財政の新しい地平: 「人と人のつながり」の財政学 (現代自治選書)
95	95(和書)	入門地方財政: 地域から考える自治と共同社会
96	96(和書)	レクチャー&エクササイズ地方財政論 (ライブラリ経済学レクチャー&エクササイズ 16)
97	97(和書)	テキストブック地方財政, 第3版
98	98(和書)	地方財政の見取り図: BLUEPRINT FOR LOCAL PUBLIC FINANCE (有斐閣ストゥディア)
99	99(和書)	地方財政を学ぶ, 新版 (有斐閣ブックス)
100	100(和書)	マクロ経済政策と地方財政 (日本地方財政学会研究叢書 第31号)
101	101(和書)	観光政策と地方財政 (日本地方財政学会研究叢書 第30号)
102	102(和書)	地方財政研究の新地平:知的共生の可能性を探る (日本地方財政学会研究叢書 第32号)
103	103(和書)	フェイズフリーな自治体財務管理体制と公会計情報: アフターコロナ時代の財務レジリエンス向上に向けて
104	104(和書)	世界がかわるシマ思考: 離島に学ぶ、生きるすべ
105	105(和書)	コミュニティ・デザイン新論
106	106(和書)	「ちいさな社会」を愉しく生きる: 広い世界から、深い宇宙へ
107	107(和書)	地域共生論: 300人規模のアクティブラーニング, 改訂新版
108	108(和書)	地域探究の視角: 清水基金プロジェクト最終報告論集

NO.	NO.	タイトル
109	109(和書)	ゆるい場をつくる人々 : サードプレイスを生み出す17のストーリー
110	110(和書)	場、建物、空間から公共性を考える: 地状学への誘い
111	111(和書)	入門・環境社会学: 現代的課題との関わりで (「入門・社会学」シリーズ 5)
112	112(和書)	入門・地域社会学: 現代的課題との関わりで (「入門・社会学」シリーズ 2)
113	113(和書)	変貌する祭礼と担いのしくみ, 第2版
114	114(和書)	地域学: 地域を可視化し,地域を創る
115	115(和書)	「負けるが価値」の地域術: HOW LOSING CAN CREATE VALUE IN THE COMMUNITY (フィギュール彩 2-10)
116	116(和書)	複雑な問題をどう解決すればよいのか: 環境社会学の実践 (シリーズ環境社会学講座 6)
117	117(和書)	コミュニティを研究する: 概念、定義、測定方法
118	118(和書)	これからの地方創生・関係人口: 関係人口から持続可能な地域の創り手へ
119	119(和書)	移動縁が変える地域社会: 関係人口を超えて (文化とまちづくり叢書)
120	120(和書)	移動する地域社会学: 自治・共生・アクターネットワーク理論 (新潟大学人文学部研究叢書 19)
121	121(和書)	惑星社会のフィールドワーク: 内なる惑星とコミュニティに“出会う” (中央大学社会科学研究所研究叢書 46)
122	122(和書)	変貌する地域社会の100年: 都道府県・市町村を単位とする地域社会類型の分析を通して
123	123(和書)	隆起サンゴ礁島の環境史: 沖縄・八重山諸島の地域コミュニティと土地制度
124	124(和書)	経済社会学から考える現代の地域協働: Contemporary Regional Collaboration from an Economic and Sociological Perspective
125	125(和書)	地域共創のすすめ: 人がまなぶ、人がつながる、地域がつながる
126	126(和書)	地域共創型実践教育・入門: コミュニティ・オーナーシップの醸成を目指して
127	127(和書)	郡上村に電話がつながって50年: むらの生活はどう変わったか
128	128(和書)	オルタナティヴ地域社会学入門: 「不気味なもの」から地域活性化を問いなおす
129	129(和書)	基層政権: 中国農村制度の諸問題
130	130(和書)	地域の社会と経済を学ぶ
131	131(和書)	地方社会の危機に抗する〈地域生活文化圏〉の形成と展開
132	132(和書)	都市と文化のメディア論: 情報化するコンテンツ
133	133(和書)	インフォーマル・パブリック・ライフ: 人が惹かれる街のルール
134	134(和書)	多様性の受け皿としての都市機能の分析: 帰属意識の観点からの考察
135	135(和書)	エスニック空間の社会学: 新大久保の成立・展開に見る地域社会の再編
136	136(和書)	大阪の生活史
137	137(和書)	都市社会学講義: シカゴ学派からモビリティーズ・スタディーズへ (筑摩選書 0293)
138	138(和書)	工業団地がやってきた: 西ジャワの都市化と地域社会
139	139(和書)	サウナ室のマダムとオヤジたち: 新型コロナ禍における地方都市のソシアビリテ
140	140(和書)	都市と地域の社会学, 新訂 (放送大学教材)
141	141(和書)	新しい都市空間: 都市理論とスケール問題
142	142(和書)	マンションポエム東京論
143	143(和書)	都市殺し: ジェントリフィケーション・不平等・抵抗
144	144(和書)	社会をひもとく: 都市・地域にみる社会問題の問い方
145	145(和書)	里山と地域社会の環境史: 多摩ニュータウンにおける社会変動と〈根ざしなおし〉
146	146(和書)	フィールドワークの現代思想: パンデミック以後のフィールドワーカーのために
147	147(和書)	インタビュー調査法入門: 質的調査実習の工夫と実践
148	148(和書)	ファセット・アプローチとデータ分析事例: データサイエンスのもうひとつの源流 (MINERVA社会学叢書 67)
149	149(和書)	社会にひらく社会調査入門
150	150(和書)	人間と社会のうごきをとらえるフィールドワーク入門
151	151(和書)	社会調査のための統計学: このとおりやればすぐできる, 改訂新版 (基礎からやさしくわかる現場の統計学)
152	152(和書)	あなたとわたしのフィールドワーク: 関係性の変容から始まる旅
153	153(和書)	地域社会を調査するということ: 地域社会
154	154(和書)	社会経済統計研究の成果と展開: 論点と関連論文(1955-90年)
155	155(和書)	社会科学のための統計学入門: 実例からていねいに学ぶ
156	156(和書)	人文系学生のためのはじめての社会調査ワークブック (リーディングスグローバル化と地域文化 2)
157	157(和書)	インタビュー調査法の基礎: ロングインタビューの理論と実践
158	158(和書)	アンケート調査の計画と解析
159	159(和書)	社会統計学入門, 3訂版 (放送大学教材)
160	160(和書)	建築・まちづくりのための空き家大全
161	161(和書)	「令和マンションブーム」から考える日本の住宅論: 日本社会にとっての「家」(K.G.りぶれっと No.58)
162	162(和書)	老後の家がありません: シングル女子は定年後どこに住む?
163	163(和書)	居住福祉の諸相 (居住福祉叢書 3)

NO.	NO.	タイトル
164	164(和書)	「ニュータウン」再生のための空き家対策とその有効活用
165	165(和書)	マンションの「老い」(KINZAIバリュー叢書L)
166	166(和書)	オールドニュータウンを活かす!: 理想都市の系譜から多様な暮らし方の実現へ
167	167(和書)	カマやんの日本一めんどくさい釜ケ崎まちづくり絵日誌
168	168(和書)	認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック: 地域共生社会に向けた15の視点
169	169(和書)	地域福祉実践としての経済活動: コミュニティワークの新たなアプローチ (関西学院大学研究叢書 第255編)
170	170(和書)	福祉開発マネジャーは何を開発しているのか: 社会参加の応援レシピ
171	171(和書)	中国都市部の社区小地域における支援システム: 網格長による地域住民に密着した支援
172	172(和書)	高齢者のボランティア活動とたのしさの共有: コロナ時代の孤立予防モデル
173	173(和書)	政策と災害: あの日、政策は命を救えたのか
174	174(和書)	「思い込みの防災」からの脱却: 命を守る!行政と住民のパラダイム・チェンジ
175	175(和書)	減災復興学: 阪神・淡路大震災から30年を迎えて
176	176(和書)	みやぎ防災ガイド: 2025 全35市町村の防災・減災施策を集約, 保存版
177	177(和書)	事例でみる住み続けるための減災の実践: 暮らし・コミュニティ・風景を地域でつなぐ手法
178	178(和書)	地域が主役の自治体災害対策: 参加・協働・連携の減災マネジメント
179	179(和書)	キーワードで学ぶ防災福祉入門
180	180(和書)	市民防災を問い直す: いま、何が必要なのか
181	181(和書)	災害と防災・防犯統計データ集: Databook of disasters,crime prevention,and disaster prevention: 2024
182	182(和書)	災害対応の伝統知: 比良山麓の里山から (地球研叢書)
183	183(和書)	危機管理白書: 防災・BCPの年間分析レポート: 2025年版
184	184(和書)	図解でわかる14歳からの自然災害と防災
185	185(和書)	防災と福祉ガイドブック: 誰一人取り残さない福祉防災の視点
186	186(和書)	災禍の民衆知と避難行動の比較分析
187	187(和書)	防災白書: 令和6年版
188	188(和書)	これから首都直下、南海トラフ巨大地震を経験する人たちへ
189	189(和書)	阪神・淡路大震災30年、南海トラフ巨大震災に備える: 東日本・熊本・能登半島ー大震災を経て (震災復興・原発震災提言シリーズ 12)
190	190(和書)	コミュニティ・ガバナンスと災害復興: 東日本大震災・津波被災地域の復興誌
191	191(和書)	今すぐ逃げて!人ごとではない自然災害: 想定外の水害からの自助共助公助
192	192(和書)	里山“超”SDGsことはじめ: 京北での2年間の活動の軌跡と未来への誘い
193	193(和書)	生涯学習と地域づくりのハーモニー: 社会教育の可能性
194	194(和書)	地域文化の再創造: 暮らしのなかの表現空間 (文化とまちづくり叢書)
195	195(和書)	つくる〈公共〉50のコンセプト
196	196(和書)	衣の民俗事典
197	197(和書)	世界が見たキモノ: オリエンタリズムとエロチシズムの文化人類学
198	198(和書)	東北の民俗歴史論: 儀礼・祭礼・芸能
199	199(和書)	民俗芸能に残る古猿楽の芸能
200	200(和書)	シシになる。: 遠野異界探訪記
201	201(和書)	島の宝を守る: 白石踊800年の伝統を受け継ぐ若者たち (吉備人選書 18)
202	202(和書)	江戸東京庶民信仰事典
203	203(和書)	自然災害地: 被災地を巡り、教訓を学ぶ
204	204(和書)	伊豆諸島の自然と災害: Nature and natural disasters in the Izu Islands
205	205(和書)	活断層防災を問う: 阪神・淡路大震災30年
206	206(和書)	こうして京都府立植物園は守られた: 市民が開くコモンズの未来
207	207(和書)	再エネ乱開発: 環境破壊と住民のたたかい
208	208(和書)	地域資源入門: 再生可能エネルギーを活かした地域づくり
209	209(和書)	脱炭素社会の地域イノベーション: 地産地消型再エネ機器による地域再生
210	210(和書)	地方産業集積のダイナミズム: 長野県上伊那地域を事例として
211	211(和書)	川から始める地方再生: リバーブランディング
212	212(和書)	人類の都: なぜ「理想都市」は闇に葬られたのか
213	213(和書)	都市の「見える化」でまちが変わる: 10のシミュレーションで地域のポテンシャルを読み解く
214	214(和書)	地域を変えるランドスケープ: はみだしの設計思考
215	215(和書)	空き不動産問題から考える地方都市再生: Harnessing Vacant Real Estate for Local City Revitalization
216	216(和書)	プロジェクトデザインブック: 地域や社会の課題を解決するトータルデザイン手法: Vol.1
217	217(和書)	都市の緑は誰のものか: 人文学から再開発を問う
218	218(和書)	消えるデザイン: 町の景観

NO.	NO.	タイトル
219	219(和書)	景観デザインの誕生
220	220(和書)	景観デザインは景観のデザインたりえたか
221	221(和書)	〈迂回する経済〉の都市論: 都市の主役の逆転から生まれるパブリックライフ
222	222(和書)	15分都市の実践: 世界に学ぶ地球規模の課題解決
223	223(和書)	ニューヨークのパブリックスペース・ムーブメント: 公共空間からの都市改革
224	224(和書)	建築と造園をつなぐランドスケープデザイン入門: An Introduction to Landscape Design
225	225(和書)	実践から学ぶまちづくり入門講座
226	226(和書)	人生100年時代の都市デザイン: 豊かなライフシーンをつくるソーシャルインフラ
227	227(和書)	都市・まちづくりのためのコミュニティ入門
228	228(和書)	風景をつむぐディテール: 土地・場所・時の設計図集
229	229(和書)	志民協働による景観と観光をつくる戦略と手法: 志民がつむぐ地域の姿と物語
230	230(和書)	大邱の敵産家屋: 地域コミュニティと市民運動
231	231(和書)	世界のサインデザインとうつくしい街並み
232	232(和書)	初めて学ぶ都市計画: Town Planning, 第3版
233	233(和書)	アマルフィ海岸のテリトーリオ: 大地と結ばれた海洋都市群の空間構造
234	234(和書)	グローカル時代の景観デザイン: ポストコロナ、再生可能エネルギー、自然災害へのレジリエンス
235	235(和書)	都市環境学を開く
236	236(和書)	生活の視点でとく都市計画, 第2版
237	237(和書)	都市のコラージュ: 美術・生活・歴史
238	238(和書)	都市再開発実務ハンドブック: 2024
239	239(和書)	すべてが庭になる: 人の居場所をつくる
240	240(和書)	関西大改造2030: 万博を機に変わる大阪・京都・兵庫, 保存版
241	241(和書)	東京大改造2030: 都心の景色を変える100の巨大プロジェクト, 保存版
242	242(和書)	令和日本の課題「認知症」と「まちづくり」: 先進地スコットランドから学べること
243	243(和書)	戦後英国の都市計画理論: 計画技術論から総合的まちづくり論へ
244	244(和書)	ウォーカブルなまちを評価する
245	245(和書)	北海道・恵庭奇跡のまちづくり: チームの力で笑顔が弾けた!幸せなまちで暮らす人たちの証言
246	246(和書)	パークナイズ: 公園化する都市
247	247(和書)	図説わかる公園緑地計画
248	248(和書)	自然と人間との共生: 都市の緑と環境保全
249	249(和書)	公園の木はなぜ切られるのか: 都市公園とPPP
250	250(和書)	PARK STUDIES: 公園の可能性
251	251(和書)	都市の防災空地と《つながり》づくり (都市調査報告 19)
252	252(和書)	都市防災整備の経済効果
253	253(和書)	持続可能な発展に向けた地域からのトランジション: 私たちは変わるのか・変えられるのか
254	254(和書)	「公害地域再生」とは何か: 大阪・西淀川「あおぞら財団」の軌跡と未来
255	255(和書)	SDGs自治体白書: 2023-2024 SDGsを自治体の取組に実装するには
256	256(和書)	フットパスによる未来づくり (文化とまちづくり叢書)
257	257(和書)	天変地異のオープンサイエンス: みんなでつくる科学のカタチ
258	258(和書)	知って備える防災の科学技術: 最新 (GEOペディア)
259	259(和書)	安全学入門: 安全を理解し、確保するための基礎知識と手法, 第2版
260	260(和書)	2040年の防災DX: Digital Transformation for Disaster Prevention in 2040
261	261(和書)	郊外を片づける: 住宅はこのまま滅びるのか
262	262(和書)	地方再興の力になるSLの恒久運転
263	263(和書)	食による地域経済の活性化: 食品加工事業の育成と大都市への販売戦略
264	264(和書)	あしたへつなぐおいしい東北: 古今東北のチャレンジ
265	265(和書)	食品企業の成功する通販・直販ビジネス: 地方・中小が圧倒的に有利! (DO BOOKS)
266	266(和書)	北の酒蔵よよみがえれ!: 国を動かした地方創生蔵 上川大雪 (究極のまちをつくる 1)
267	267(和書)	啐啄
268	268(和書)	ストック・シェアリング: 蓄積された地域価値の再編による新しいコミュニティづくり
269	269(和書)	地域産業政策の新展開: 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて (龍谷大学社会科学研究所叢書 第138巻)
270	270(和書)	The Challenges of Revitalizing Rural Areas in Japan: Case studies by trailblazers
271	271(和書)	地方創生から地域デザインへのコンテクスト転換: 地方と中央との関係編集による地域価値の創造 (地域デザイン学会叢書 11)
272	272(和書)	ウィキペディアでまちおこし: みんなでつくろう地域の百科事典
273	273(和書)	イノベーション創発による地域経済の発展: 中間支援組織による地域内外の産業連関

NO.	NO.	タイトル
274	274(和書)	人間復興の地域経済学: 地域とくらしの歴史・理論・政策
275	275(和書)	まちあす地方創生宣言
276	276(和書)	継承する地域・創造する地域: コロナ禍を越えて蘇るその魅力 (朝日大学産業情報研究所叢書 13)
277	277(和書)	ポップカルチャーによる地域創生のマーケティング: 超えろ3年の壁!
278	278(和書)	地域創生の新しいデザイン: 地域の潜在力を付加価値に
279	279(和書)	ふるさと未来デザイン: 地域の魅力を発見・発信するためのマーケティング実践ガイド
280	280(和書)	自治体の産業振興戦略: 生活・産業プラットフォームの形成
281	281(和書)	文化×地域×デザインが社会を元気にする
282	282(和書)	北海道未来学: 国立大学法人北海道国立大学機講小樽商科大学経営学特講生活協同組合コープさっぽろ寄付講座
283	283(和書)	北海道未来学: 国立大学法人北海道国立大学機講小樽商科大学経営学特講生活協同組合コープさっぽろ寄付講座: 2
284	284(和書)	北海道をマーケティングする: 輸出専門商社である「北海道株式会社」の設立を願って, 新版
285	285(和書)	海と生きる:「気仙沼つばき会」と『気仙沼漁師カレンダー』の10年
286	286(和書)	喜多方物語: ラーメンで町おこしに挑んだ男たち
287	287(和書)	DX時代の広域連携: スマートリージョンをめざして
288	288(和書)	薬草を食べる人びと: 北アルプスが生んだ薬箱のまち 飛騨 (究極のまちをつくる 2)
289	289(和書)	大阪・北摂のガストロノミー: 地域振興のための食資源
290	290(和書)	ウィズコロナ時代の都市イノベーション (AIR叢書 第4号)
291	291(和書)	日本の未来は島根がつくる: 人口減少時代の地域づくり69のヒント2011-2023
292	292(和書)	地域を価値づけるまちづくり: 尾道を蘇らせた移住者・空き家再生・ツーリズムの分析
293	293(和書)	移住で地方を元気にする: IT社長が木の会社を作った理由
294	294(和書)	社会を変える旅に出よう: 地域政策デザインが創り出す新たな未来
295	295(和書)	品質を追求しキルギスのブランドを世界へ: 途上国支援の新たな可能性「一村一品プロジェクト」(JICAプロジェクト・ヒストリー・シリーズ)
296	296(和書)	循環型地場産業の創造: 持続可能な地域・産業づくりに向けて
297	297(和書)	地域産業の経営革新と流通・マーケティング戦略: 地域産業の振興と地域創生
298	298(和書)	地方を豊かにする経営理論: 福井県の企業に学ぶ
299	299(和書)	東アジアの観光・地域振興・経営: 中国・復旦大学特聘教授芮明傑先生合作30周年記念論文集 (亜東経済国際学会研究叢書 25)
300	300(和書)	原点回帰: 山田孝之、新しいコミュニティをつくる
301	301(和書)	森と算盤: 地球と資本主義の未来地図
302	302(和書)	限界集落の経営学: 活性化でも撤退でもない第三の道、粗放農業と地域ビジネス
303	303(和書)	食農コミュニティの新展開: 福島で考える農山村振興
304	304(和書)	地域に学ぶひとづくり: 和歌山・上秋津と大学との地域づくりからの発信
305	305(和書)	「革命」を語る: ガーナ農村部の民衆運動
306	306(和書)	地域主義の実践: 農産物の直接販売の行方
307	307(和書)	農産物直売所で稼ぐ70の極意: いま知っておきたい!
308	308(和書)	失敗しない小規模EC戦略: 本当の“こだわり”でお客様をつかむ、小さな農家の販促術
309	309(和書)	産直と地産地消の地平を拓く
310	310(和書)	農業の6次産業化の地平
311	311(和書)	焼畑を活かす土地利用の地理学: ラオス山村の70年 (地域研究叢書 47)
312	312(和書)	「食」でつながるアフリカのコミュニティ: 持続可能な地域の発展をかなえるための5つのヒント
313	313(和書)	有機給食が地域を変える (日本農業の動き No.222)
314	314(和書)	風景の近代史
315	315(和書)	「未来の公園」をつくる男: PARK DEVELOPMENTパークベンチャーカンパニーが、日本経済を立て直す!
316	316(和書)	推しの公園を育てる!: 公園ボランティアで楽しむ地域の庭づくり
317	317(和書)	昭和の商店街遺跡、撮り倒した590箇所: 全国厳選108スポットの〈ド渋〉写真
318	318(和書)	東日本大震災を超えて!!: シャッター通りからの復興
319	319(和書)	原宿表参道100年先を見据えるまちづくり: 商店街振興組合原宿表参道欅会50周年記念誌
320	320(和書)	商店街×コミュニケーション: 東京杉並・和田商店街と応援団わだっちの挑戦
321	321(和書)	滅びない商店街のつくりかた: リノベーションまちづくり・エリアマネジメント・SDGs
322	322(和書)	人気キャラクターを活かした「販促キャンペーン」の仕掛け方: これからのプロパティ・キャンペーン戦略
323	323(和書)	今までのビジネス人生で最高に売れた最強販促事例を全て包み隠さずお話しします。
324	324(和書)	今までのビジネス人生で最高に売れた最強販促事例を全て包み隠さずお話しします。: 2
325	325(和書)	「0円販促」を実現する法: 最小の経費で最大の集客を実現する販促戦略とは? (DO BOOKS)
326	326(和書)	Town Center: 商業開発起点によるウォーカブルなまちづくり
327	327(和書)	みんなのまちゼミ: 頼りにされるお店と街をつくる方法

NO.	NO.	タイトル
328	328(和書)	街づくり×商業: リアルメリットを極める方法
329	329(和書)	まちづくりのコーディネーション: 日本の商業と中心市街地活性化法制
330	330(和書)	日本再生のレシピ: 地方再生のレシピ 2
331	331(和書)	パブリックライフ: 人とまちが育つ共同住宅・飲食店・公園・ストリート
332	332(和書)	サービスデザイン思考:「モノづくりから、コトづくりへ」をこえて
333	333(和書)	Googleアナリティクス4のやさしい教科書。: 手を動かしながら学ぶアクセス解析の基本と実践ポイント, 改訂新版
334	334(和書)	強いBtoBマーケティング: 起業から5年、アウトバウンド営業なしで年平均成長率185%を達成した手法
335	335(和書)	「選べない」はなぜ起こる?
336	336(和書)	確率思考の戦略論: どうすれば売上は増えるのか
337	337(和書)	このオムライスに、付加価値をつけてください
338	338(和書)	顧客創造のための事例から学ぶマーケティングの教科書, 第2版
339	339(和書)	プレステップマーケティング, 第2版 (PRE-STEP 04)
340	340(和書)	FRAGMENT UNIVERSITY: 藤原ヒロシの特殊講義
341	341(和書)	ブランドスケープ: ブランド構築を目的とした空間マーケティング (阪南大学叢書 130)
342	342(和書)	消費者行動とマーケティング・リサーチ
343	343(和書)	エッセンシャルマーケティング: Essential Marketing
344	344(和書)	価格のマネジメント: 戦略・分析・意思決定・実践
345	345(和書)	顧客生涯価値マーケティング: 持続的な関係性をつくる
346	346(和書)	慟哭する概念: 明日のマーケター思惟に不可欠の概念たち―「イノベーション」「CSI(顧客満足度指標)」「SDGs」「AI&IoT」「ビッグデータ」―の呟きに耳を欹ててみた
347	347(和書)	キャラクター大国ニッポン: 世界を食らう日本IPの力
348	348(和書)	コトラーの起業家的マーケティング: 伝統的手法から脱して創造性とリーダーシップ重視型アプローチへ
349	349(和書)	マーケティングの科学: セオリー・エビデンス・実践で学ぶ世界標準の技術
350	350(和書)	価値共創マーケティングの深化: Value Co-Creation Marketing
351	351(和書)	マーケティング論, 改訂第2版
352	352(和書)	新・消費者理解のための心理学, 第2版
353	353(和書)	マーケティング, 改訂新版 (放送大学教材)
354	354(和書)	集客・販促術大全: 決定版
355	355(和書)	アジアンコンシューマークロニクル: アジアの生活者の価値観とZ世代の動向
356	356(和書)	デザインリサーチの演習: DESIGN RESEARCH:BUILD,TEST,REPEAT
357	357(和書)	感性価値を高める商品開発とブランド戦略: 感性商品開発の理論から事例まで
358	358(和書)	商品開発・管理の挑戦: デザイン,ラグジュアリー,ブランド,社会課題
359	359(和書)	「ひとりメーカー」の教科書: モノづくりで自由に稼ぐ4つのステップ
360	360(和書)	企業内リードユーザー: 小売店舗販売員がもたらすイノベーションの解明 (碩学叢書)
361	361(和書)	「女性たちのウェルビーイング」マーケティング: 新しいビジネスをつくり出す (DO BOOKS)
362	362(和書)	これからの物流を読み解く!
363	363(和書)	間違いだらけの日本の物流
364	364(和書)	流通と商業の基礎理論, 改訂版
365	365(和書)	流通入門, 増補改訂第2版
366	366(和書)	流通原理, 新装版 (bibliothèque chikura)
367	367(和書)	最新流通論, 第2版
368	368(和書)	物流論, 第3版 (ベーシック+)
369	369(和書)	流通論の基礎, 第4版
370	370(和書)	流通システムとサプライチェーン・マネジメント, 第2版
371	371(和書)	交通政策への招待
372	372(和書)	30年先を見据えた交通計画
373	373(和書)	移動から公共交通を問い直す: コロナ禍が気づかせたこと
374	374(和書)	交通政策入門: INTRODUCTION TO TRANSPORT POLICY, 第3版
375	375(和書)	総合交通体系論の系譜と展開 (日本交通政策研究会研究双書 36)
376	376(和書)	世界に学ぶ自転車都市のつくりかた: 人と暮らしが中心のまちとみちのデザイン
377	377(和書)	よくわかる最新都市交通の基本と仕組み: これからの新しい鉄道や公共交通 (図解入門-How-nual- Visual Guide Book)
378	378(和書)	中国高速鉄道と経済・社会発展の新構造
379	379(和書)	観光という虚像: アイデンティティをめぐる地方自治体の自問自答
380	380(和書)	歴史的建造物の再生とツーリズムジェントリフィケーション: Renovation of Historical Buildings and Tourism Gentrification
381	381(和書)	DMOと観光行政のためのマーケティングとマネジメント: Marketing and Management for DMOs and Tourism Policy Makers
382	382(和書)	観光まちづくりの展望: 地域を見つめ、地域を動かす

NO.	NO.	タイトル
383	383(和書)	地域旅行ビジネス論: Destination-based Tourism Business
384	384(和書)	観光地経営でめざす地方創生: インバウンド獲得の司令塔となる世界水準DMOとは
385	385(和書)	地域創生は文化の現場から始まる: 全国35事例に学ぶ官民のパートナーシップ
386	386(和書)	文化という名の開発: 再生産される「豊かな未来」
387	387(和書)	地域を活性化させるプロジェクションマッピング: 光のアートで地方創生
388	388(和書)	「産業」としての工芸: ものづくりから挑む地域創生
389	389(和書)	音楽の力と市民: 協創の文化資本 (文化とまちづくり叢書)
390	390(和書)	スポーツがつくる未来: 30年後のあなたの地域と社会 (大阪経済大学研究叢書 第94冊)
391	391(和書)	地域スポーツ政策を問う: 新しい地域スポーツへの挑戦
392	392(和書)	アクティブシティ戦略: 暮らしているだけで健康になるまちづくり
393	393(和書)	都市とスポーツ: CITY AND SPORTS (ASC叢書 5)
394	394(和書)	スポーツによる地域振興: その視点と具体的アプローチ
395	395(和書)	歩いて学ぶ都市経済学
396	396(和書)	都市経済学
397	397(和書)	イノベーションの経済学「繁栄のパラドクス」に学ぶ巨大市場の創り方
398	398(和書)	年収は「住むところ」で決まる 雇用とイノベーションの都市経済学
399	399(和書)	カフェから時代は創られる
400	400(和書)	経営戦略としての都市再生: チームによるエリアマネジメントの実践と手法
401	401(和書)	ポストアーバン都市・地域論
402	402(和書)	エフェクチュエーション
403	403(和書)	コミュニティの幸福論
404	404(和書)	ソーシャル・スタートアップ
405	405(和書)	行動科学でより良い社会をつくる
406	406(和書)	エフェクチュアル・シフト
407	407(和書)	ビジネスモデル・ジェネレーション(コンパクト版)
408	408(和書)	図解知識ゼロからの協同組合入門
409	409(和書)	2050年超高齢社会のコミュニティ構想
410	410(和書)	2050年新しい地域社会を創る
411	411(和書)	労働者協同組合とは何か
412	412(和書)	自分だからできる仕事のつくり方
413	413(和書)	デジタルマーケティングの定石
414	414(和書)	デザイン思考
415	415(和書)	「風の谷」という希望
416	416(和書)	現代農山村の社会分析
417	417(和書)	現代の社会学的解読:イントロダクション社会学
418	418(和書)	人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学
419	419(和書)	地域社会学入門:現代的課題との関わりで
420	420(和書)	よくわかる地域社会学
421	421(和書)	現代社会の探求:理論と実践
422	422(和書)	入門・社会学:現代的課題との関わりで
423	423(和書)	財政再建団体―何を得て、何を失うか―赤池町財政再建プロセスの検証
424	424(和書)	自治体破たん・「夕張ショック」の本質 改訂版
425	425(和書)	地方創生の理論と実践　地域活性化システム論
426	426(和書)	新版　現代地方自治論
427	427(和書)	地方創生―これから何をなすべきか
428	428(和書)	地方創生―新たなモデルを目指して―
429	429(和書)	日米の流通イノベーション
430	430(和書)	顧客志向のマス・マーケティング
431	431(和書)	グローバル競争と流通・マーケティング
432	432(和書)	商品開発・管理の新展開
433	433(和書)	Earth Drop　北海道のオサムシ図鑑
434	434(和書)	お隣の非正規公務員～地域を変える、北海道から変える～
435	435(和書)	北海道の鳥～ビジュアル図鑑～
436	436(和書)	北海道夜汽車の記憶
437	437(和書)	カムイの天空～宇宙の聲～

NO.	NO.	タイトル
438	438(和書)	新夏山ガイド〈4〉 日高山脈・夕張山地
439	439(和書)	決定版北海道道の駅ガイド〈2025-26〉
440	440(和書)	シマフクロウのすべて
441	441(和書)	今すぐ行きたい!北海道のサウナ
442	442(和書)	北海道でいちばん大切にしたい会社
443	443(和書)	年表と写真で見る北海道の国鉄～電化から民営化まで～
444	444(和書)	言葉の現在地～2017-2024～
445	445(和書)	さっぽろ探見～ちょっとディープなまち歩き～
446	446(和書)	北海道昭和の鉄道風景～懐かしの汽車旅～
447	447(和書)	新夏山ガイド〈6〉 道東・道北・増毛
448	448(和書)	エゾモモンガも日和
449	449(和書)	池上商店夢の商家館
450	450(和書)	北海道絶滅動物館
451	451(和書)	海岸ぐるり!道南の地形と地質
452	452(和書)	決定版北海道の温泉まるごとガイド〈2024-25〉
453	453(和書)	北海道の業界地図〈2024-25〉
454	454(和書)	ヒグマは見ている～道新クマ担記者が追う～
455	455(和書)	石狩川ものがたり～ともに歩んだ大河と人々の歴史～
456	456(和書)	北海道の高山植物～800種以上を収録した高山植物の決定版～ 改訂新版
457	457(和書)	写真で見る世界の路面電車
458	458(和書)	菅井貴子と学ぶ北海道の天気と防災
459	459(和書)	消えた「四島返還」～安倍×プーチン北方領土交渉の真相～ 完全版
460	460(和書)	アイヌモシリ オオカミが見た北海道
461	461(和書)	まるごとしまえなが
462	462(和書)	札幌むかし写真帖
463	463(和書)	まち歩き札幌の歴史
464	464(和書)	北海道でSDGs～基本から実践例まで～
465	465(和書)	北海道爬虫類・両生類ハンディ図鑑 増補新版
466	466(和書)	絶景北海道の鉄道
467	467(和書)	七光星に輝きを～ニセコのキセキ・札幌集中のリアル～
468	468(和書)	新夏山ガイド〈1〉 道央
469	469(和書)	見る感じる驚く!道東の地形と地質
470	470(和書)	カムイの生命～鼓動する野生～
471	471(和書)	お隣は外国人～北海道で働く、暮らす～
472	472(和書)	世界遺産北の縄文
473	473(和書)	北海道遺産完全ガイド
474	474(和書)	北海道新聞が伝える核のごみ考えるヒント
475	475(和書)	北海道夏山ガイド〈2〉 最新第2版 表大雪の山々
476	476(和書)	北の文学～北海道新聞文学賞、短歌賞、俳句賞～〈2020〉
477	477(和書)	北海道建築物大図鑑
478	478(和書)	検証ブラックアウト～北海道胆振東部地震～
479	479(和書)	化石先生は夢を掘る～忠類ナウマンゾウからサッポロカイギュウまで～
480	480(和書)	くしろ写真帳
481	481(和書)	北海道のワイナリー～つくり手たちを訪ねて～
482	482(和書)	ヒグマ大全
483	483(和書)	北海道の魚類全種図鑑
484	484(和書)	北海道野鳥観察地ガイド 増補新版
485	485(和書)	札沼線の記憶
486	486(和書)	北大総合博物館のすごい標本
487	487(和書)	見に行こう!大雪・富良野・夕張の地形と地質
488	488(和書)	北海道民具事典〈2〉 生業・生産用具 交通・運搬・通信用具
489	489(和書)	北の文学～北海道新聞文学賞、短歌賞、俳句賞～〈2019〉
490	490(和書)	絵はがきのなかの札幌～明治から戦後まで～
491	491(和書)	明治期北海道の兵士たち～徴兵・戦没・慰霊～
492	492(和書)	アイヌからみた北海道150年

NO.	NO.	タイトル
493	493(和書)	ヒグマ学への招待～自然と文化で考える～
494	494(和書)	札幌クラシック建築追想～都市と建築老眼遊記～
495	495(和書)	さっぽろ喫茶店グラフィティー 改訂版
496	496(和書)	ほっかいどう地酒ラベルグラフィティー～美麗なラベルと銘酒150余年の歩み～
497	497(和書)	さっぽろ歴史&地理さんぽ～エピソードと写真で振り返る札幌の150年～
498	498(和書)	北海道大地の理～北の鼓動に耳を澄ませて～
499	499(和書)	札幌の地名がわかる本～10区の地名を徹底解説!～ 増補改訂版
500	500(和書)	北海道の縄文文化こころと暮らし
501	501(和書)	さっぽろ燐寸ラベルグラフィティー～今ここに、甦る懐かしき昭和～
502	502(和書)	高校生と探究したい北海道の地域課題～高校「公共」副読本～
503	503(和書)	ヤジと公安警察(寿郎社ブックレット 8)
504	504(和書)	芦別～炭鉱〈ヤマ〉とマチの社会史～
505	505(和書)	地域政策の新たな潮流を探る
506	506(和書)	北海道の図書館員が薦めるブックガイド～わが町を知ってもらうなら!～
507	507(和書)	札幌誕生
508	508(和書)	地域構造の多様性と内発的発展～北海道の地域経済～ 改訂版(現代経済政策シリーズ 5)
509	1(外国)	A Transition to Sustainable Housing: Progress and Prospects for a Low Carbon Housing Future
510	2(外国)	An Essay on Culture - Symbolic Structure and Social Structure
511	3(外国)	Case Studies in Disaster Response (Disaster and Emergency Management: Case Studies in Adaptation and Innovation series)
512	4(外国)	Community in Urban-Rural Systems: Theory, Planning, and Development (Studies in Urban-Rural Dynamics)
513	5(外国)	Community-Led Development in Practice: We Power Our Own Change (Rethinking Development)
514	6(外国)	Contemporary Strategy Analysis, 12th ed
515	7(外国)	Critical Planning Futures: New Directions in Planning Theory
516	8(外国)	Environmental Hazards: Assessing Risk and Reducing Disaster, 7th ed.
517	9(外国)	Global Supply Chains In A Glocal World: The Impact Of Covid-19 And Digitalisation
518	10(外国)	Governing Disaster in Urban Environments: Climate Change Preparation and Adaption after Hurricane Sandy
519	11(外国)	Informed Urban Environments: Data-integrated Design for Human and Ecology-centred Perspectives (The Urban Book Series)
520	12(外国)	Marketing: A Sociological Approach
521	13(外国)	Marketing: Based on First Principles
522	14(外国)	Methods in Urban Analysis (Cities Research Series)
523	15(外国)	Outdoor Thermal Comfort in Urban Environment: Assessments and Applications in Urban Planning and Design (SpringerBriefs in Architectural Design and Technology)
524	16(外国)	Planning for Community
525	17(外国)	Planning for Urban Sustainability: Doctrines, Disciplines, and Practices
526	18(外国)	Regenerating Essential Goods and Services in Urban Landscapes: Sustainability Through Ecological Design
527	19(外国)	Regional Economic Systems after COVID-19: Actionable Insights for an Equitable and Resilient Recovery (New Horizons in Regional Science Series)
528	20(外国)	Researching the City: A Guide for Students, 2nd ed.
529	21(外国)	Resilience and Regional Development: New Roadmaps
530	22(外国)	Resourcing an Agroecological Urbanism: Political, Transformational and Territorial Dimensions (Routledge Studies in Food, Society and the Environment)
531	23(外国)	Rethinking Community through Transdisciplinary Research
532	24(外国)	Rural Local Governance and Development
533	25(外国)	Sales Management: A Research Overview (State of the Art in Business Research)
534	26(外国)	Sociology Through Emotions: A Concise Reader
535	27(外国)	State and Local Public Finance, 5th ed.
536	28(外国)	Strategic Management, 10th ed.
537	29(外国)	The Cores of Strategic Management, 2nd ed.
538	30(外国)	The Geography of Transport Systems, 6th ed.
539	31(外国)	The Routledge Handbook of Public Transport (Routledge International Handbooks)
540	32(外国)	The Sociology of Farming: Concepts and Methods (Earthscan Food and Agriculture)
541	33(外国)	Transforming Social Housing: International Perspectives
542	34(外国)	Understanding and Addressing Disaster Risk: Who Speaks? Who Suffers?
543	35(外国)	Understanding Local Economic Development: Second Edition, 2nd ed.
544	36(外国)	Understanding Strategic Management, 5th ed.
545	37(外国)	Urban Development and Planning: An Introduction

NO.	NO.	タイトル
546	1(電子)	知識をシェアする産業振興戦略 ―地方発ソフトウェア産業の経営学的考察―
547	2(電子)	まちづくりと図書館 ―人々が集い、活動し創造する図書館へ―【スマホ・読上】
548	3(電子)	箱根の開発と渋沢栄一
549	4(電子)	国際地域研究　2
550	5(電子)	国際地域研究 3
551	6(電子)	国際地域研究 4
552	7(電子)	国際地域研究　5
553	8(電子)	国際地域研究 6
554	9(電子)	地域の危機・釜石の対応 ―多層化する構造―(危機対応学)
555	10(電子)	13歳から考えるまちづくり
556	11(電子)	市民は行政と協働を創れるか (フィギュール彩 2-6)
557	12(電子)	市民は行政と協働を創れるか【スマホ・読上】(フィギュール彩 2-6)
558	13(電子)	地域経営のための「新」ファイナンス ―「ふるさと納税」と「クラウドファンディング」のインパクト―
559	14(電子)	地方自治講義
560	15(電子)	領域を超えない民主主義 ―地方政治における競争と民意―
561	16(電子)	テキストブック地方自治 第3版
562	17(電子)	テキストブック地方自治 第3版【スマホ・読上】
563	18(電子)	自治のどこに問題があるのか ―実学の地方自治論―(シリーズ政治の現在)
564	19(電子)	いまから始める地方自治 改訂版
565	20(電子)	自治体における「負の政策波及」―障害者差別解消条例とホームレス支援政策はいかに抑制されたか―
566	21(電子)	自治体政策学 (Basic study books)
567	22(電子)	地方自治入門 (Basic Study Books)
568	23(電子)	ニューミュニシパリズム ―グローバル資本主義を地域から変革する新しい民主主義―
569	24(電子)	地方自治論 ―2つの自律性のはざまで―新版(有斐閣ストゥディア)
570	25(電子)	市民ワークショップは行政を変えたのか ―ミニ・パブリックスの実践と教訓―
571	26(電子)	地域研究ハンドブック ―行政からの調査協力を上手に得るためには―
572	27(電子)	47都道府県の地方自治 ―「市町村への権限移譲」に見る制度運用の比較研究―
573	28(電子)	知事と政策変化 ―財政状況がもたらす変容―
574	29(電子)	大阪の選択 ―なぜ都構想は再び否決されたのか―
575	30(電子)	翻訳者・媒介者としての外国籍・外国ルーツの行政職員　現場にみる期待・役割・課題 (叢書インテグラーレ 023)
576	31(電子)	学歴・試験・平等 ―自治体人事行政の3モデル―
577	32(電子)	非正規公務員のリアル ―欺瞞の会計年度任用職員制度―
578	33(電子)	非正規公務員のリアル ―欺瞞の会計年度任用職員制度―【スマホ・読上】
579	34(電子)	地方公務員の給与システムに関する研究
580	35(電子)	新・シティプロモーションでまちを変える【スマホ・読上】(フィギュール彩 2-5)
581	36(電子)	新・シティプロモーションでまちを変える (フィギュール彩 2-5)
582	37(電子)	事例に学ぶ地域づくり
583	38(電子)	デジタルローカルハブ ―社会課題を克服する地方創生の切り札―
584	39(電子)	まちづくり大全
585	40(電子)	地方創生 ―デジタルで救う地域社会・経済―
586	41(電子)	日本一わかりやすい地方創生の教科書 ―全く新しい45の新手法&新常識―
587	42(電子)	地域データ分析入門 ―すぐに役立つEBPM実践ガイドブック―
588	43(電子)	地方創生の政策効果とデータ分析 ―― Excelで初歩から学ぶ
589	44(電子)	「集落の教科書」のつくり方 ―移住者を助けるガイドブック―
590	45(電子)	地域でアクションリサーチ ―話し合いが変わる―
591	46(電子)	地域再生最前線 ―食・農・団地再生・教育から進める地域の創り直し―
592	47(電子)	SmartCity5.0 ―持続可能な共助型都市経営の姿―
593	48(電子)	野球のまち阿南をつくった男 ―日本に唯一の初代野球課長―
594	49(電子)	地域も自分もガチで変える!逆転人生の糸島ブランド戦略 ―税金ドロボーと言われた町役場職員が、日本一のMBA公務員になれたわけ―【スマホ・読上】
595	50(電子)	コンパクトシティの経済分析
596	51(電子)	首都圏形成の戦後史 ―計画・開発と自治体―(首都圏史叢書 9)
597	52(電子)	首都改造 ―東京の再開発と都市政治―(歴史文化ライブラリー 500)
598	53(電子)	持続する郊外 ―住民主導のアーバニズム―【スマホ・読上】
599	54(電子)	「対話」を通したレジリエントな地域社会のデザイン (地域公共人材叢書 第5期)
600	55(電子)	中国共産党中央局の研究　集権と分権を架橋する広域統治機構

NO.	NO.	タイトル
601	56(電子)	スコットランドと「開かれた」ナショナリズム = Scotland and 'open' nationalism : independence
602	57(電子)	第三の支柱 ―コミュニティ再生の経済学―
603	58(電子)	地域創生, そして日本創生へ (日本経済政策学会叢書 2)
604	59(電子)	備後福山の社会経済史 ―地域がつくる産業・産業がつくる地域―
605	60(電子)	大国のなかの地域経済 ―アメリカ・中国・日本・EU・ロシア―(ERINA北東アジア研究叢書 11)
606	61(電子)	都市・地域経済学への招待状〔新版〕(有斐閣ストゥディア)
607	62(電子)	「好き」で仕事をつくるナリワイ起業 ―地域が変わるスモールビジネス―【スマホ・読上】
608	63(電子)	「好き」で仕事をつくるナリワイ起業 ―地域が変わるスモールビジネス―
609	64(電子)	47都道府県・老舗百科
610	65(電子)	地域企業のポートレイト ―遠景近景の国際ビジネス―
611	66(電子)	日本経営学会東北部会発グローバル化の中の地域企業 ―経営理念による地域との共創―
612	67(電子)	「地域創生」の法則 ―中小企業×公共=最強の「場」―
613	68(電子)	持続可能社会を築く中小企業経営 ―環境・歴史・文化・地域との共生を目指して―
614	69(電子)	中小企業の国際化と自立化 ―日立地域にみる胎動―
615	70(電子)	地域とつながる中小企業論 (y-knot)
616	71(電子)	中小企業・スタートアップを読み解く = Understanding SMEs and startups ―伝統と革新, 地域と世界―(有斐閣ストゥディア)
617	72(電子)	国際ビジネスの現実と地平 ―地域からの眺望―(広島市立大学国際学部叢書 10)
618	73(電子)	7つの問い ―戦略実行のエッセンス―
619	74(電子)	ビジネスモデル創造企業
620	75(電子)	経営戦略 (ベーシック+ = Basic plus)
621	76(電子)	事業計画の極意 = The mastery of strategy and business planning ―仮説と検証で描く成長ストーリー―
622	77(電子)	パーパスブランディング　鼓動した9つの物語【スマホ・読上】
623	78(電子)	「価値」こそがすべて! ―ハーバード・ビジネス・スクール教授の戦略講義―
624	79(電子)	イノベーションの競争戦略 ―優れたイノベーターは0→(生み出す) 1か?横取りか?―
625	80(電子)	エコシステム・ディスラプション ―業界なき時代の競争戦略―
626	81(電子)	スマート・ライバル　ビッグ・テックと戦う企業
627	82(電子)	スマート・ライバル　ビッグ・テックと戦う企業【スマホ・読上】
628	83(電子)	ディスカバリー・ドリブン戦略 ―かつてないほど不確実な世界で「成長を最大化」する方法―
629	84(電子)	パーパス経営 ―30年先の視点から現在を捉える―
630	85(電子)	企業成長の仕込み方 (経営戦略の実戦 = Strategy in action 2)
631	86(電子)	実戦のための経営戦略論
632	87(電子)	収益多様化の戦略 ―既存事業を変えるマネタイズの新しいロジック―
633	88(電子)	戦略の創造学 ―ドラッカーで気づきデザイン思考で創造しポーターで戦略を実行する―
634	89(電子)	戦略の創造学 ―ドラッカーで気づきデザイン思考で創造しポーターで戦略を実行する―【オーディオブック】
635	90(電子)	熱狂的ビジネスモデル　アートが見せる価値創造の未来
636	91(電子)	熱狂的ビジネスモデル　アートが見せる価値創造の未来【スマホ・読上】
637	92(電子)	武器としての図で考える経営 ―本質を見極め未来を構想する抽象化思考のレッスン―
638	93(電子)	両利きの経営 ―「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く―増補改訂版
639	94(電子)	デジタル時代のエコシステム経営 ―共創・共栄する仕組みづくりの論理―
640	95(電子)	事業戦略実践ガイドブック ―ケースで学ぶ価値創造と利益獲得の方法―【スマホ・読上】
641	96(電子)	経営戦略の経済学 新版
642	97(電子)	競争戦略論の発展と競争優位の持続可能性
643	98(電子)	デザイン経営
644	99(電子)	ビジネスに役立つ経営戦略論 ―企業の戦略分析入門―
645	100(電子)	企業戦略論 = Corporate strategy and organization design ―構造をデザインする―
646	101(電子)	経営戦略論 ―戦略マネジメントの要諦―
647	102(電子)	アイデアが実り続ける「場」のデザイン　新規事業が生まれる組織をつくる6つのアプローチ【スマホ・読上】
648	103(電子)	フェーズフリー 「日常」を超えた価値を創るデザイン【スマホ・読上】
649	104(電子)	事業構想を「書く」ビジネスモデルを可視化し新規事業開発を加速させるフレームワーク【スマホ・読上】
650	105(電子)	新・地方財政 (有斐閣ブックス)
651	106(電子)	新しい地方財政論 新版(有斐閣アルマ Specialized)
652	107(電子)	地方財政学 ―機能・制度・歴史―
653	108(電子)	地方財政改革(1989～2019年)　統治の観点と自治権の確保
654	109(電子)	地方財政改革の現代史
655	110(電子)	日本の地方財政 第2版

NO.	NO.	タイトル
656	111(電子)	アメリカの連邦補助金 ―医療・教育・道路―
657	112(電子)	公会計と公共マネジメント
658	113(電子)	公共施設とライフサイクルコスト
659	114(電子)	地方財政効率化の政治経済分析
660	115(電子)	環境社会学事典
661	116(電子)	創造する都市を探る（フィールド科学の入口）
662	117(電子)	「みんな」って誰? ―災間と過疎をのびのび生きる―【スマホ・読上】(教養みらい選書 009)
663	118(電子)	関係人口の社会学 ―人口減少時代の地域再生―
664	119(電子)	自治と教育の地域づくり（シリーズ社会・経済を学ぶ．新・地域社会論 2）
665	120(電子)	レジリエンス--よみがえる力-- ―森・風景・地域・人の交差の中で―【スマホ・読上】(生存科学叢書)
666	121(電子)	コミュニティの社会学 = Sociology of community life
667	122(電子)	新・地域の社会学（有斐閣アルマ Specialized）
668	123(電子)	地域・都市の社会学 ―実感から問いを深める理論と方法―(有斐閣ストゥディア)
669	124(電子)	海峡都市・下関市の生活世界 ―交流・連携，在日コリアン，まちづくり―
670	125(電子)	現代コミュニティの社会設計 ―新しい《コミュニティ形成・まちづくり》の思想―
671	126(電子)	立ち退かされるのは誰か? ―ジェントリフィケーションと脅かされるコミュニティ―
672	127(電子)	立ち退かされるのは誰か? ―ジェントリフィケーションと脅かされるコミュニティ―【スマホ・読上】
673	128(電子)	空間と統治の社会学 ―住宅・郊外・ステイホーム―【スマホ・読上】
674	129(電子)	インターネット・オブ・プレイス ―「都市」の新しい拡張―
675	130(電子)	ブルックリン化する世界 ―ジェントリフィケーションを問いなおす―
676	131(電子)	グローバル都市革命 ―コンパクトシティ田園都市第3の都市―
677	132(電子)	ガールズ・アーバン・スタディーズ ―「女子」たちの遊ぶ・つながる・生き抜く―
678	133(電子)	「シカゴ学派」の社会学 ―都市研究と社会理論―
679	134(電子)	都市に聴け ―アーバン・スタディーズから読み解く東京―
680	135(電子)	都市社会学・入門 改訂版(有斐閣アルマ Specialized)
681	136(電子)	山の手「成城」の社会史 ―都市・ミドルクラス・文化―【スマホ・読上】
682	137(電子)	Excelではじめる調査データ分析 ―企画から統計解析まで―
683	138(電子)	最新・社会調査へのアプローチ ―論理と方法―
684	139(電子)	社会調査の方法論
685	140(電子)	新・社会科学のためのデータ分析入門 導入編
686	141(電子)	調査する人生
687	142(電子)	統計調査法 ―社会科学のためのデータサイエンス―
688	143(電子)	大学生のためのウェブ調査入門 ―社会科学からみた設計と実装―
689	144(電子)	エスノグラフィー入門 ―〈現場〉を質的研究する―改訂版
690	145(電子)	はじめての社会調査【スマホ・読上】
691	146(電子)	ウェブ調査の基礎 ―実例で考える設計と管理―【スマホ・読上】
692	147(電子)	ランキング ―私たちはなぜ順位が気になるのか?―【スマホ・読上】
693	148(電子)	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 第3版
694	149(電子)	質的調査の方法 ―都市・文化・メディアの感じ方―第3版
695	150(電子)	数学嫌いのための社会統計学 第3版
696	151(電子)	無作為抽出ウェブ調査の挑戦
697	152(電子)	質的社会調査のジレンマ 上巻 ―ハーバート・ブルーマーとシカゴ社会学の伝統―(現代プラグマティズム叢書 第5巻)
698	153(電子)	質的社会調査のジレンマ 下巻 ―ハーバート・ブルーマーとシカゴ社会学の伝統―(現代プラグマティズム叢書 第6巻)
699	154(電子)	ポスト・コロナ時代 どこに住み、どう働くか【スマホ・読上】
700	155(電子)	親の家を売る。―維持から売却まで、この1冊で大丈夫!―【スマホ・読上】
701	156(電子)	後悔しない住宅購入52の法則 ―賢い人だけ知っている―
702	157(電子)	経済学で考える人口減少時代の住宅土地問題
703	158(電子)	私たちはなぜ家を買うのか ―後期近代における福祉国家の再編とハウジング―(シリーズ数理・計量社会学の応用 2)
704	159(電子)	日本の居住保障 ―定量分析と国際比較から考える―(国立社会保障・人口問題研究所研究叢書)
705	160(電子)	社会体制と社会権 ―ロシアの体制転換と住宅・土地・社会保障―
706	161(電子)	ルポ 秀和幡ケ谷レジデンス【スマホ・読上】
707	162(電子)	データ活用で災害リスクを減らせ！
708	163(電子)	災害情報学の挑戦 = The uncool but bold challenge of disaster informatics ―無限の可能性を拓く―
709	164(電子)	災害対応と近現代史の交錯 ―デジタルアーカイブと質的データ分析の活用―
710	165(電子)	防災福祉先進国・スイス ―災害列島・日本の歩むべき道―

NO.	NO.	タイトル
711	166(電子)	防災リテラシー 第2版
712	167(電子)	災害食の事典
713	168(電子)	自然災害と地域づくり
714	169(電子)	災害情報 = Disaster information and social psychology : lessons from the Great East Japan Earthquake ―東日本大震災からの教訓―
715	170(電子)	避難学 ―「逃げる」ための人間科学―
716	171(電子)	減災・復興政策と社会的不平等 ―居住地選択機会の保障に向けて―
717	172(電子)	自分で地域で手づくり防災術 ―土砂崩れ、洪水、地震に備える―
718	173(電子)	防災アプリ特務機関NERV ―最強の災害情報インフラをつくったホワイトハッカーの10年―【スマホ・読上】
719	174(電子)	神と妖怪の防災学 ―「みえないリスク」へのそなえ―
720	175(電子)	地域防災の実践 ―自然災害から国民や外国人旅行者を守るための実学―
721	176(電子)	阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか ―被災者支援の30年と未来の防災―
722	177(電子)	阪神・淡路大震災から私たちは何を学んだか ―被災者支援の30年と未来の防災―【スマホ・読上】
723	178(電子)	高潮・津波がわかる ―沿岸災害のメカニズムと防災 : カラー図説―
724	179(電子)	災害に強い地域づくり ―地域社会の内発性と計画―
725	180(電子)	震災復興の地域社会学 ―大熊町の一〇年―【スマホ・読上】
726	181(電子)	風水害と防災の事典
727	182(電子)	地域学習支援論 ―学び合える社会関係のデザイン―
728	183(電子)	地域社会のつくり方 ―社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ―
729	184(電子)	学校という「ハコモノ」が日本を救う!【スマホ・読上】
730	185(電子)	列島縦断 日本の墓　失われゆく墓石を訪ねる
731	186(電子)	火葬と土葬 ―日本人の死生観―
732	187(電子)	盆行事と葬墓習俗の伝承と変遷 ―民俗学の視点と方法―
733	188(電子)	47都道府県・民俗芸能百科
734	189(電子)	日本のこよみ英語表現事典　二十四節気七十二候／暦と風物詩をたのしむ
735	190(電子)	あしたの防災学 ―地球科学者と考える災害と防災―
736	191(電子)	気象防災の知識と実践（気象学ライブラリー 1）
737	192(電子)	天気予報活用ハンドブック ―四季から読み解く気象災害―
738	193(電子)	逆流する津波 ―河川津波のメカニズム・脅威と防災―
739	194(電子)	地震学の歴史からみる地震防災
740	195(電子)	これからのインフラ開発
741	196(電子)	人口減少時代の都市・インフラ整備論
742	197(電子)	ゼロから学ぶ土木の基本　景観とデザイン（改訂2版）
743	198(電子)	ゴミが作りだす社会　現代インドネシアの廃棄物処理の民族誌
744	199(電子)	現代都市のための9か条 = Nine articles for the contemporary city : nine defects of the modern city ―近代都市の9つの欠陥―
745	200(電子)	都市計画 5訂版（土木系大学講義シリーズ 17）
746	201(電子)	コモンズの再構築 ―2024年度日本建築学会設計競技優秀作品集―
747	202(電子)	ピークレス都市東京
748	203(電子)	協働型都市開発 ―国際比較による新たな潮流と展望―
749	204(電子)	協働型都市開発 ―国際比較による新たな潮流と展望―【スマホ・読上】
750	205(電子)	アーバニズムのいま（SD選書 271）
751	206(電子)	コミュニティ・アセットによる地域再生
752	207(電子)	コミュニティのかたちと復興区画整理
753	208(電子)	ソフトシティ ―人間の街をつくる―
754	209(電子)	庭と風景のあいだ（SD選書 272）
755	210(電子)	都市の問診
756	211(電子)	日本外地都市計画史
757	212(電子)	空間から読み解く環境デザイン入門
758	213(電子)	景観用語事典 増補改訂第2版
759	214(電子)	都市計画 第4版
760	215(電子)	都市計画学
761	216(電子)	入門都市計画 ―都市の機能とまちづくりの考え方―第2版
762	217(電子)	〈ムラナカ〉の公共デザイン ―山中湖村の生活文化と景観まちづくり―
763	218(電子)	コンパクトシティのアーバニズム ―コンパクトなまちづくり,富山の経験―
764	219(電子)	都市の詩学　増補新装版　場所の記憶と徴候

NO.	NO.	タイトル
765	220(電子)	都市の戦後 ―雑踏のなかの都市計画と建築―増補新装版
766	221(電子)	地方都市における中心市街地の課題　人口減少時代とまちづくり（高崎経済大学産業研叢書）
767	222(電子)	アジアン・コモンズ ―いま考える集住のつながりとデザイン―【スマホ・読上】
768	223(電子)	動都 ―移動し続ける首都―【スマホ・読上】
769	224(電子)	未完の平和記念都市【スマホ・読上】
770	225(電子)	路面電車とまちの風景 ―LRTデザインパレット―
771	226(電子)	緑のランドスケープデザイン ―正しい植栽計画に基づく景観設計―改訂2版
772	227(電子)	公園が主役のまちづくり ―パブリックスペースのつくり方・活かし方―【スマホ・読上】
773	228(電子)	都市と緑の人類史
774	229(電子)	自然によりそう地域づくり ―自然資本の保全・活用のための協働のプロセスとデザイン―
775	230(電子)	都市防災ハンドブック
776	231(電子)	自然災害科学・防災の百科事典
777	232(電子)	生態系減災Eco-DRR ―自然を賢く活かした防災・減災―
778	233(電子)	増災と減災 ―行き過ぎた再生可能エネルギー開発による災害への警告―
779	234(電子)	防災工学 改訂
780	235(電子)	建築・まちづくりプロジェクトのマネジメント = Management of community-based architecture and landscape projects : to develop a sustainable built environment ―持続可能な価値創造のために―
781	236(電子)	原子力発電と地域資源 ―「依存度低減」と「地方創生」への対応―（シリーズ原子力発電と地域 3）
782	237(電子)	進化する里山資本主義
783	238(電子)	場づくりから始める地域づくり ―創発を生むプラットフォームのつくり方―
784	239(電子)	地域デザインモデルの研究 ―理論構築のための基本と展開―（地域デザイン学会叢書 8）
785	240(電子)	地域デザイン研究のイノベーション戦略 ―フィードバック装置としての多様なメソドロジーの開発―（地域デザイン学会叢書 10）
786	241(電子)	地域価値発現モデル ―ZTCAデザインモデルの進化方向―（地域デザイン学会叢書 9）
787	242(電子)	地域再生企業 ―地域を輝かせる企業とそのあり方―
788	243(電子)	新産業を生み出す地域社会システム ―産学官によるイノベーションの共創―
789	244(電子)	地域ブランド = Regional branding
790	245(電子)	地方創生先駆者モデル ―「共助」が生み出す新たな戦略―
791	246(電子)	地域に学び、地域を創る（OIDAIライブラリー 4）
792	247(電子)	日本の先進技術と地域の未来
793	248(電子)	イノベーターはあなたの中にいる ―創造的起業家に変わる体験のデザイン―
794	249(電子)	地域創生DX ―オンライン化がつなぐ地域発コンテンツの可能性―【スマホ・読上】
795	250(電子)	ウィキペディアタウン・ハンドブック　図書館・自治体・まちおこし関係者必携
796	251(電子)	地域プラットフォームの論理 ―プレイス・ブランディングに向けて―
797	252(電子)	地域バリューチェーン ―持続可能な地域を創る―
798	253(電子)	地域振興と慈善活動 ―慈善・寄付は地域を呼び覚ます―
799	254(電子)	「グリーン・ハウス」があった街 ―メディア文化の街はどこへ向かうのか―
800	255(電子)	「寄り添い型研究」による地域価値の向上
801	256(電子)	都市の産学連携エコシステム = Industry-academia collaboration for regional ecosystems
802	257(電子)	中山間地域ハンドブック
803	258(電子)	地域づくりのやる気学
804	259(電子)	なぜ、あそこの6次産業化はうまくいくのか?
805	260(電子)	中野ブロードウェイ物語【スマホ・読上】
806	261(電子)	大型店の立地再編と地域商業 ―出店規制の推移を軸に―
807	262(電子)	AI駆動マーケティング　業務効率化を超える生成AI実践術
808	263(電子)	「買わせる」の心理学 ―消費者の心を動かすデザインのしくみ67―改訂新版
809	264(電子)	SNSマーケティングのやさしい教科書。―写真・動画から広告まで、ビジネスを加速させる最新技術―改訂4版
810	265(電子)	AI・データ分析モデルのレシピ（Science and engineering recipes）
811	266(電子)	オノマトペ・マーケティング ―もふもふからはじめる市場調査・商品開発・販促支援―
812	267(電子)	サービスデザインの発想法 ―アイデアをうみだす17のメソッド―
813	268(電子)	ビッグデータ活用マーケティング・サイエンス ―実データで体験する：はじめてでもわかる「R」によるデータ分析―
814	269(電子)	消費者の向社会的行動原理 ―カスタマー・ハラスメント予防のためのコミュニケーション―
815	270(電子)	これからを考えるデジタルマーケティングの教室
816	271(電子)	実践マーケティングデータサイエンス ―ショッパー行動の探索的データ解析と機械学習モデル構築―（量子AI・データサイエンス叢書）
817	272(電子)	ソーシャルメディアにおける価値共創メカニズム
818	273(電子)	戦略的マーケティングの基本演習12講

NO.	NO.	タイトル
819	274(電子)	DX時代のサービスデザイン ―「意味」の力で新たなビジネスを作り出す―
820	275(電子)	コトラー&ケラー&チェルネフ マーケティング・マネジメント 原書16版
821	276(電子)	コトラーのマーケティング入門 原書14版
822	277(電子)	アメリカ・マーケティング研究史15講 ―対象と方法の変遷―
823	278(電子)	買い物の科学 ―消費者行動と広告をめぐる心理学―【スマホ・読上】
824	279(電子)	マーケティング（サクッとわかるビジネス教養）
825	280(電子)	マーケティング用語図鑑 改訂版
826	281(電子)	サブスクリプション（やさしく知りたい先端科学シリーズ 7）
827	282(電子)	多文化社会の消費者認知構造 ―グローバル化とカントリー・バイアス―（早稲田大学エウプラクシス叢書 026）
828	283(電子)	アクティブ・ラーニングのためのマーケティング・ショートケース ―ビジネススクール流思考力トレーニング―
829	284(電子)	マーケティングとSNSのミカタ ―地方創生への処方箋―
830	285(電子)	マーケティングの最強ツールは知財である
831	286(電子)	2030年中国ビジネスの未来地図 ―9億人新市場が誕生する日―
832	287(電子)	B to Bマーケティング ―DX時代の成長シナリオ―新版
833	288(電子)	テキストマイニング概論 ―顧客と知識を見える化する―
834	289(電子)	自分で選んでいるつもり ―行動科学に学ぶ驚異の心理バイアス―
835	290(電子)	新しい顧客のつくりかた ―見えない消費者をあなたのお客さまに変える戦略―
836	291(電子)	世界のラグジュアリーブランドはいま何をしているのか?
837	292(電子)	日本の消費者はどう変わったか ―生活者1万人アンケートでわかる最新の消費動向―
838	293(電子)	「持たない時代」のマーケティング ―サブスクとシェアリング・サービス―【スマホ・読上】
839	294(電子)	ブランド戦略ケースブック2.0 ―13の成功ストーリー―【スマホ・読上】
840	295(電子)	マーケティングは進化する ―クリエイティブなMarket+ingの発想―改訂第2版【スマホ・読上】
841	296(電子)	図解デジタルマーケティング・ハンドブック = Digital marketing handbook【スマホ・読上】
842	297(電子)	マーケティング（日評ベーシック・シリーズ）
843	298(電子)	メガマーケティングによる市場創造戦略 ―携帯音楽配信サービスの誕生―
844	299(電子)	デジタルマーケティング大全 = Digital marketing bible ―新時代のビジネスモデルを切り拓く―
845	300(電子)	異国情緒の感じ方
846	301(電子)	新時代のマーケティング ―デジタル経済を動かすキーワード―
847	302(電子)	すっきりわかるマーケティング戦略 = Essentials of marketing strategy
848	303(電子)	マーケティング教育学
849	304(電子)	人は悪魔に熱狂する ―悪と欲望の行動経済学―【スマホ・読上】
850	305(電子)	カスタマー・アドボカシー志向 ―デジタル時代の顧客志向戦略―
851	306(電子)	サービス・マーケティング ―コンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ―（有斐閣ストゥディア）
852	307(電子)	はじめてのマーケティング = Marketing for beginners 新版（有斐閣ストゥディア）
853	308(電子)	ブランド・インキュベーション戦略 ―第三の力を活かしたブランド価値協創：ブランドは,こうして生まれ育っていた―
854	309(電子)	ブランド・リレーションシップ
855	310(電子)	マーケティングをつかむ 第3版（Textbooks tsukamu）
856	311(電子)	マーケティング戦略 第6版（有斐閣アルマ Specialized）
857	312(電子)	入門・マーケティング戦略 新版
858	313(電子)	入門・消費者行動論
859	314(電子)	ザ・ダークパターン = The dark pattern ―ユーザーの心や行動をあざむくデザイン―【スマホ・読上】
860	315(電子)	マーケティング・リサーチに従事する人のためのデータ分析・解析法 ―多変量解析法と継時調査・時系列データの分析―
861	316(電子)	マーケティング・リサーチに従事する人のための調査法・分析法 ―定量調査・実験調査・定性調査の調査法と基礎的分析法―
862	317(電子)	「専門家」以外の人のためのリサーチ&データ活用の教科書 ―問題解決マーケティングの秘訣は、これだ!―
863	318(電子)	需要予測の戦略的活用 ―マーケティングとサプライチェーンマネジメント(SCM)をつなぐ―【スマホ・読上】（オペレーションズ・マネジメント選書）
864	319(電子)	Webアンケート調査設計・分析の教科書 ―第一線のコンサルタントがマクロミルで培った実践方法―【スマホ・読上】（Data utilization）
865	320(電子)	リ・デザイン思考法 ―宇宙開発から生まれた発想ツール―【スマホ・読上】
866	321(電子)	顧客経験価値を創造する商品開発入門
867	322(電子)	デザイン、アート、イノベーション ―経営学から見たデザイン思考、デザイン・ドリブン・イノベーション、アート思考、デザイン態度―【スマホ・読上】
868	323(電子)	デザイン経営への7ステップ【スマホ・読上】（ディスカヴァーebook選書）
869	324(電子)	オンラインプラットフォームの経営
870	325(電子)	バリュー・プロポジションのつくり方　顧客の価値を「状況」で考えればプロダクト・サービス開発はうまくいく【スマホ・読上】
871	326(電子)	ビジネスデザインのための行動経済学ノート ―バイアスとナッジでユーザーの心理と行動をデザインする―

NO.	NO.	タイトル
872	327(電子)	プロダクトマネージャーになりたい人のための本　エンジニアからプロジェクトマネージャー・事業企画・経営コンサルタント・デザイナー・現役PMまで【スマホ・読上】
873	328(電子)	流通チャネル・リンケージ論 ―マーケティングとロジスティクスの均衡をめざして―第2版
874	329(電子)	物流変革　～物流を止めない。社会を動かす～
875	330(電子)	物流変革　～物流を止めない。社会を動かす～【スマホ・読上】
876	331(電子)	物流アルゴで世が変わる ―サプライチェーンの最適化―【スマホ・読上】(オペレーションズ・マネジメント選書)
877	332(電子)	ソーシャル・ロジスティクス = Social logistics ―社会を、創り・育み・支える物流―(山縣記念財団ライブラリー 3)
878	333(電子)	はじめての流通 新版(有斐閣ストゥディア)
879	334(電子)	はじめて学ぶ物流 (有斐閣ブックス)
880	335(電子)	ベーシック流通と商業 ―現実から学ぶ理論と仕組み―第3版(有斐閣アルマ Basic)
881	336(電子)	新しい流通論 (有斐閣ブックス)
882	337(電子)	交通計画学 改訂(土木・環境系コアテキストシリーズ E-3)
883	338(電子)	これからの地方創生のシナリオ ―公共交通「ノッカル(MaaS)」が、消滅可能性都市を蘇らせたのは、なぜか?―
884	339(電子)	国際交通論 ―政策・産業とその展望―
885	340(電子)	地域公共交通政策論 第2版
886	341(電子)	地域公共交通の統合的政策 ―日欧比較からみえる新時代―
887	342(電子)	交通政策の空間的応用一般均衡分析 ―インフラ・料金・環境政策評価―(日本交通政策研究会研究双書 35)
888	343(電子)	交通インフラの運営と地域政策
889	344(電子)	脱炭素物流
890	345(電子)	ドイツ路面電車ルネサンス【スマホ・読上】
891	346(電子)	脱炭素社会に向けた都市交通政策の展開 (日本交通政策研究会研究双書 34)
892	347(電子)	地域と芸術文化投資
893	348(電子)	アートプレイスとパブリック・リレーションズ ―芸術支援から何を得るのか―
894	349(電子)	スポーツで地域を動かす
895	350(電子)	ホストタウン・アーカイブ ―スポーツまちづくりとメガイベントの記録―【スマホ・読上】

学術雑誌一覧

NO.	タイトル
1	地方財務　月刊
2	地方自治　月刊
3	判例地方自治　隔月
4	自治体法務研究　季刊
5	月刊　事業構想　月刊
6	週刊　観光経済新聞　週刊
7	ブレーン　月刊
8	トッププロモーションズ販促会議　月刊
9	地方議会人　月刊
10	日経グローカル　月2回
11	都市問題　月刊
12	都市計画　隔月
13	日本都市社会学会年報　年刊
14	組織科学
15	文化政策研究
16	日経アーキテクチュア = Nikkei architecture
17	Casabella：カザベラjapan
18	GA Japan：environmental design
19	GA document
20	住宅建築：the housing journal for builders and designers
21	建築知識：the kenchiku chishiki
22	ディテール
23	建築画報
24	建築技術
25	Casa brutus：life design magazine = 月刊「カーサ・ブルータス」
26	土木學會誌
27	商店建築：syohten kentiku
28	A+U：architecture and urbanism：建築と都市
29	近代建築
30	新建築
31	都市問題
32	舗装
33	水利科学
34	週刊東洋経済
35	一橋ビジネスレビュー = Hitotsubashi business review
36	Harvard business review：Diamondハーバード・ビジネス・レビュー
37	日経グローカル：地域創造のための専門情報誌 = Nikkei glocal
38	宣伝会議
39	事業構想 = Project design
40	住宅特集 = Jutakutokushu
41	日経ビジネス
42（電子）	Journal of Marketing Analytics
43（電子）	Journal of Innovation and Entrepreneurship
44（電子）	Journal of Population Research
45（電子）	The Annals of Regional Science
46（電子）	npj Sustainable Mobility and Transport
47（電子）	Transportation
48（電子）	Review of Regional Research
49（電子）	Population Research and Policy Review

資料24

地域創造学部　地域創造学科　授業時間割

学期		前期								後期							
曜日	講時	1年		2年		3年		4年		1年		2年		3年		4年	
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
月	1					地域研究法 中講義室(2) 橋本				地域問題論 大講義室 山本 牧野 板谷		まちづくり論 中講義室(1) 石田 道尾 非)安富		流通販売論 中講義室(2) 伊藤			
	2	人間関係力の構築 E405 郡谷		地域資源論 大講義室 橋本 梶谷 道尾 非)飯嶋		地域企業論 中講義室(2) 坂井 石山				地域経済論 大講義室 板谷		ことづくり論 中講義室(1) 若林 坂井 非)長谷川		広報広告論 中講義室(2) 三井			
	3	修学基礎講座 E405 村原		比較地域論 大講義室 山本 板谷 非)保苅		6次産業化論 中講義室(2) 非)抜山 非)石川 非)池端		イノベーション論 中講義室(1) 牧野 坂井 非)矢野				マーケティング 調査 中講義室(1) 若林		地域交通論 中講義室(2) 石田 非)河合			
	4	情報通信技術Ⅰ E405 非)根本				都市計画論 中講義室(2) 石田 非)窪田		地域創造研究 演習室/実習室 山本 牧野 板谷 橋本 若林 伊藤 梶谷 道尾 細川 坂井								地域創造研究 演習室/実習室 山本 牧野 板谷 橋本 若林 伊藤 梶谷 道尾 細川 坂井	
	5																
火	1	法律と憲法 A210 非)江頭		法律と憲法 A210 非)江頭		商品開発論 中講義室(1) 石山		公園緑地計画論 中講義室(2) 非)酒井									
	2	日本語表現Ⅰ (口頭) E403 塚崎 E404 笠井		英語表現Ⅲ (実践) G203 坂部 G204 小野		マーケティング 戦略 中講義室(1) 若林		住宅計画論 中講義室(2) 非)佐野		民族と宗教 G203 奥山史		民族と宗教 G203 奥山史					
	3	自己管理力の構築 G303 非)能登谷				都市環境論 中講義室(1) 道尾 牧野 非)片山		地域防災論 中講義室(2) 細川 非)安達 非)飛岡		経済と政策 E404 非)平澤		経済と政策 E404 非)平澤					
	4					地域景観論 中講義室(1) 石田 道尾 非)安達				情報通信技術Ⅱ A210 非)谷川							
	5																
水	1			地域調査法 大講義室 山本 牧野						地域調査論 大講義室 山本 牧野		地域自治論 中講義室(2) 橋本					
	2	英語表現Ⅰ (基礎) E303 坂部 E304 小野		地域変動論 大講義室 山本 板谷						地域文化論 大講義室 梶谷 非)今村		合意形成論 中講義室(2) 非)近藤					
	3	問題解決法 G303 郡谷		地域コミュニティ論 大講義室 牧野		健康と運動 A212 苫米地				現地調査 (地域理解) 大講義室 実習室 山本 梶谷 道尾 細川 坂井 横山		地方財政論 中講義室(2) 板谷					
	4	キャリア形成Ⅰ E401 三富		地域活性論 大講義室 伊藤		創造思考法 E404 本多						地域分析法 中講義室(2) 牧野 非)保苅					
	5																

学期		前期								後期							
曜日	講時	1年		2年		3年		4年		1年		2年		3年		4年	
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
木	1	地域創造概論 大講義室 橋本 山本 板谷 石田															
	2	社会学入門 大講義室 山本		マーケティング論 中講義室(1) 若林		キャリア形成Ⅱ A210 三富						資源活用論 大講義室 橋本 梶谷 道尾 坂井 横山					
	3	経済学入門 大講義室 板谷		現地調査 （地域問題） 中講義室(1) 実習室 山本 伊藤 坂井 横山		自然と環境 A212 福原				英語表現Ⅱ（応用） G303 坂部 G304 小野		現地調査 （地域資源） 大講義室 実習室 橋本 梶谷 道尾 坂井 横山					
	4					安全と平和 A307 非）仲野				日本語表現Ⅱ（文章） G303 塚崎 G304 飯田							
	5					外交と国益 A307 非）仲野											
金	1					地域ビジネス論 中講義室(1) 石山						地域ブランド論 中講義室(1) 若林 非）中川					
	2	心理と行動 A212 笠井		心理と行動 A212 笠井		地域創造演習 中講義室(1) 演習室 橋本 梶谷 道尾 細川 坂井 横山		知的財産権 中講義室(2) 三井		地方創生論 大講義室 橋本		地域産業論 中講義室(1) 坂井 非）保苅		地域災害論 中講義室(2) 細川 牧野 非）村澤			
	3	政治と行政 A212 非）仲野		政治と行政 A212 非）仲野		現地調査 （資源活用） 中講義室(1) 実習室 橋本 梶谷 道尾 坂井 横山		デザインシンキング 中講義室(2) 非）荒水		地域社会論 大講義室 山本		地域調査実習 中講義室(1) 牧野					
	4			統計分析法 E401 非）谷川													
	5																

学年	学期	科目名	教室	担当者
3	後期	地域創造実習	実習室	橋本、梶谷、道尾、細川、坂井、横山

前田キャンパス　駅前キャンパス

北海道科学大学自己点検・評価規程

（趣　旨）

第１条　この規程は、北海道科学大学（以下「本学」という。）学則第２条に基づき、本学の教育、研究、社会貢献等の質的向上を図り、大学運営全般の改善・改革に資するため、教育研究、組織運営、施設設備等の総合的な状況に対する自己点検・評価並びにその結果に対する認証評価機関による評価の受審に関し、必要な事項を定める。

（自己点検・評価委員会）

第２条　本学に、自己点検・評価及び認証評価機関による評価のための統括的組織として、北海道科学大学自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（自己点検ＩＲ委員会）

第３条　委員会に、委員会の求めに応じ自己点検・評価のための情報収集、整理を支援するとともに、教学ＩＲ活動を行う自己点検ＩＲ委員会を置く。

２　自己点検ＩＲ委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

（組　織）

第４条　委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

（１）学長

（２）副学長

（３）自己点検ＩＲ委員会委員長、同副委員長

（４）学部長、大学経営企画室長、全学共通教育部長、センター長

（５）事務局長、総務部長、財務部長、学務部長、入試・地域連携部長

（委員長）

第５条　委員会に委員長をおき、学長をもってあてる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長は、必要とみとめた場合は第４条に掲げた者以外の者の出席を求めることができる。

（会議の成立要件）

第６条　委員会は、委員の３分の２以上の出席がなければ、議事を開くことができない。

（自己点検・評価事項等）

第７条　自己点検・評価は次の各号に掲げる事項について行う。

（１）使命・目的及び教育目的に関すること

（２）学生の受入れに関すること

（３）学生の支援に関すること

（４）学修環境及び教育研究等の環境に関すること
（５）教育課程の編成及び学修成果に関する全学的な方針の策定・検証・評価に関すること
（６）教育研究組織及び研究支援に関すること
（７）教員・教員組織及び職員に関すること
（８）大学運営及び財務に関すること
（９）内部質保証に関すること
（10）社会連携・社会貢献に関すること
（11）その他、委員会が必要と認める事項に関すること

（自己点検・評価の実施）
第８条　３年ごとに前条の各号に定める全ての事項に関し自己点検・評価を行う。
２　６年ごとに自己点検・評価結果について認証評価機関による評価を受ける。

（結果の公表）
第９条　自己点検・評価結果を報告書にまとめ公表するとともに、自己点検・評価結果に対する認証評価機関による評価の受審結果についてもホームページ等により公表する。

（結果の活用）
第10条　学長は、前条の自己点検・評価結果に基づき、全学的に改善が必要と認められるものについては、その改善策の検討を大学経営企画室に指示し、改善策の遂行を監視するものとする。
２　学長は、専攻、学科、全学共通教育部、大学経営企画室、センター及び委員会の各組織において改善が必要と認められるものについては、当該組織に改善策の検討と実行を指示し、その経過及び結果の監督・検証に努めるものとする。
３　学長は、前２項の監視・検証結果を、大学経営企画室、専攻、学科、全学共通教育部及びセンターが立案する諸計画の策定に反映させるものとする。

（委員等の職責）
第11条　委員会委員及び自己点検・評価に関係するすべての者は、本委員会の活動の対象となる職員及び学生の基本的人権を損なうことのないように努めるとともに、職員の人事に関する記録及び学生の学業成績その他職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

（庶　務）
第12条　委員会の庶務は、総務課がこれにあたる。

（規程の改廃）
第13条　この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附　則
１　この規程は、平成５年10月29日から施行する。

１　この規程の改正は、平成10年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成19年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成21年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成22年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成24年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成26年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成27年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成28年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成29年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成30年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2019年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2020年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2022年４月１日から施行する。

北海道科学大学ファカルティ・ディベロップメント規程

（趣　旨）

第１条　この規程は、北海道科学大学学則第13条及び北海道科学大学大学院学則第24条に基づき、ファカルティ･ディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）を推進するために必要な事項を定める。

（教育履行上求められる資質・能力）

第２条　本学の基本理念に定められた、時代の要請に即したプロフェッショナル教育を推進し、組織的に編成された体系的なカリキュラムに基づいて、学修者本位の教育を適切に実施するために教員に求められる資質･能力を以下のように定める。

（１）授業の設計・運営・評価・改善の能力
（２）動機付け、学修意欲向上等に繋がる学生主体授業の取り組み能力
（３）社会生活に必要な基盤能力と総合的な人間力を養成する指導能力
（４）学生の理解度に応じた授業外・教室外での学修指導能力
（５）授業内容・水準及び多元的成績評価の実施等の授業の質保証取り組み能力
（６）教授態度、職業倫理、人材育成に携わる者としての使命感
（７）教育改善に向けた教育改革への提案・積極関与の姿勢

（ＦＤ活動）

第３条　前条に掲げる教員に求められる「教育履行上求められる資質・能力」の醸成に資する活動を通じて、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の取り組みと定める。

（ＦＤ委員会）

第４条　本学に、ＦＤのための総括的組織として、北海道科学大学ＦＤ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組　織）

第５条　委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

（１）委 員 長　副学長
（２）副委員長　学生支援センター副センター長（教務担当）
（３）委　　員
　ア　各学科及び全学共通教育部から学長が指名する者　各１名
　イ　自己点検ＩＲ委員会委員長
　ウ　教務企画課長

（任　期）

第６条　前条において役職によって指名される者の任期は、その職の在任期間とする。

２　前条において学長の指名する者の任期は２年とする。ただし、再任は妨げない。
３　欠員により補充された場合の任期は、前任者の残任期間とする。

（臨時委員）
第７条　委員長は、必要と認めた場合は、本学学生や学外の者に対して臨時委員を委嘱することができる。
２　臨時委員の任期は１年以内とし、再任は妨げない。
３　臨時委員の任務はその都度定め、委嘱時に伝達するものとする。

（任　務）
第８条　委員会は、次の事項について組織的教育力の向上、教育の質保証に資する諸活動を行う。
（１）第２条に掲げる「教育履行上求められる資質・能力」の向上を図るための研修に関すること
（２）全学的ＦＤの計画立案と実施に関すること
（３）教育組織ごとに実施されたＦＤ活動の結果集約とその発表に関すること
（４）授業改善のためのアンケートに関すること
（５）ＦＤのための組織体制に関すること
（６）その他組織的教育活動に必要と認められる事項

（会　議）
第９条　委員長は、必要に応じ委員会を招集し、その議長となる。
２　委員長事故あるときは、あらかじめ指名された委員が議長の職務を代行する。
３　委員長は、必要と認めた場合は、第５条に掲げた者以外の者の出席を求めることができる。

（報　告）
第10条　委員長は、委員会で審議された事項を学長に報告するものとする。

（庶　務）
第11条　委員会の庶務は、教務企画課がこれにあたる。
２　会議の議事録は、委員長の指名する者が作成し、議長が確認後、教務企画課長が保管する。

（規程の改廃）
第12条　この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附　則
１　この規程は、平成22年４月１日から施行する。
この規程の施行により、「北海道工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」は、これを廃止する。

１　この規程の改正は、平成24年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成26年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成27年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成28年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成29年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、平成30年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2019年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2020年４月１日から施行する。
１　この規程の改正は、2020年10月30日から施行する。

学校法人北海道科学大学スタッフ・ディベロップメント規程

（目　的）

第１条　この規程は、学校法人北海道科学大学就業規則第95条に基づき、本法人の職員のうち大学（以下「大学」という。）の業務に従事する職員に対するスタッフ･ディベロップメント（以下「ＳＤ」という。）を推進するために必要な事項を定めることを目的とする。

（ＳＤの定義）

第２条　この規程におけるＳＤとは、「大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、職員を対象とした必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための活動（ファカルティ・ディベロップメントに関する活動を除く）」をいう。なお、職員には、事務職員だけでなく、教育職員及び技術職員を含むものとする。

（ＳＤ活動）

第３条　前条のＳＤに係る活動は、次に掲げる事項とする。

（１）大学の管理運営及び教育研究支援に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質の向上を図るための研修に関すること

（２）建学の精神（３つのポリシーを含む）に照らした大学の取組の自己点検・評価と内部質保証、及び大学の改革に資する研修に関すること

（３）職員として求められているリーダーシップ能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、危機管理能力、政策提案・実現能力、問題解決能力及び事務処理能力等の向上を図るための研修に関すること

（４）学生の人間形成を図るために行われる正課外の諸活動における様々な指導、援助等の研修に関すること

（５）職員のスキルアップに役立つ資格取得に関すること

（６）大学組織における業務の見直しや事務処理の改善等に関すること

（７）その他ＳＤ活動として必要と認める事項

（検討機関）

第４条　前条各号の運営は総務部教職員課が行い、常任理事会の議を経て実施するものとする。

２　研修等の策定及び実施にあたり、専門部会を置くことができるものとする。

（研修会等）

第５条　研修会等は、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別し、さらに、これら学内外の研修会等を次のとおり区分して職員の派遣、テーマ等を検討する。

（１）階層別　新任職員、中堅職員、指導的職員など、経験や役職（職階）に応じて必要な知識を得るための研修会等

（２）目的別　特定の知識・技能を修得するための研修会等

（３）業務別　業務ごとの質的向上や改善等に役立つための研修会等
（４）個　別　職員個々が自主的に自己啓発、スキルアップ等を図るための研修会等

（自己研鑽費助成）
第６条　事務職員に対して、ＳＤの一環として行う自己研鑽に対する費用を助成する。
２　自己研鑽費助成に関し必要な事項は別に定める。

（規程の改廃）
第７条　この規程の改廃は、常任理事会の議を経て理事長が決定する。

附　則
この規程は、平成28年８月19日から施行し、平成28年４月１日から適用する。
この規程は、平成29年４月１日から施行する。
この規程は、平成30年７月３日から施行する。
この規程は、2020年４月１日から施行する。
この規程は、2022年４月１日から施行する。

北海道科学大学キャリア支援センター規程

（目　的）

第１条　北海道科学大学（以下「本学」という。）学則第58条に基づき、キャリア支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（組　織）

第２条　センターは、次の各号に掲げる者をもって構成する。

（１）センター長

（２）副センター長　２名以内

（３）センター主任　13名以内

（４）キャリア支援課長

２　センター長、副センター長及びセンター主任は、学長が選任する。

３　センター長は、センターの業務を掌理するとともに、キャリア支援の企画・運営に関して学長を補佐し、その責任を負うものとする。

４　副センター長は、センター長の命を受けセンター長を補佐するとともに、センター長事故あるときは、センター長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

５　センター主任は、センターの業務に従事する。

（業　務）

第３条　センターは、次の業務を行う。

（１）学生の就職支援事業に関すること

（２）学生のキャリア教育に関すること

（３）学生の資格取得に関すること

（４）学生のインターンシップ事業に関すること

（５）既卒者のキャリアアップ支援に関すること

（６）学内外関係機関とのキャリア連携に関すること

（７）その他必要と認める事項

（会　議）

第４条　センター長は、必要に応じセンター会議を招集し、その議長となる。

２　センター長は、必要と認めた場合は、第２条に掲げた者以外の者の出席を求めることができる。

（報　告）

第５条　センター長は、会議で審議された事項を学長に報告するものとする。

（専門委員会）

第６条　センターに次の委員会を置く。

（１）キャリア支援委員会

２　委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（庶　務）

第７条　センターに関する庶務は、キャリア支援課がこれにあたる。

２　会議の議事録は、センター長の指名する者が作成し、議長が確認後、キャリア支援課長が保管する。

（規程の改廃）

第８条　この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

（雑　則）

第９条　この規程に定めるもののほか、センターに関する必要な事項は、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成24年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、平成26年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、平成27年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、平成28年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、平成29年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、平成30年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、2019年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、2020年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、2022年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、2023年４月１日から施行する。

１　この規程の改正は、2025年４月１日から施行する。

北海道科学大学キャリア支援委員会規程

（目　的）

第１条　この規程は、北海道科学大学キャリア支援センター規程第６条に基づき、キャリア支援委員会（以下「委員会」という。）の運営について必要な事項を定めることを目的とする。

（組　織）

第２条　委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

（１）委員長　キャリア支援センター長

（２）委　員

ア　キャリア支援センター副センター長

イ　各学科のキャリア支援委員代表者

ウ　キャリア支援課長

（任　期）

第３条　前条に掲げる者の任期は、その職の在任期間とする。

２　欠員により補充された場合の任期は、前任者の残任期間とする。

（任　務）

第４条　委員会は、キャリア支援センターの指示を受け次の業務を遂行する。

（１）学生の就職支援事業に関すること

（２）学生のキャリア教育に関すること

（３）学生の資格取得に関すること

（４）学生のインターンシップ事業に関すること

（５）企業対応・企業開拓等に関すること

（６）その他必要と認める事項

（会　議）

第５条　委員長は、必要に応じ委員会を招集し、その議長となる。

２　委員長事故あるときは、あらかじめ指名された委員が議長の職務を代行する。

３　委員長は、必要と認めた場合は、第２条に掲げた者以外の者の出席を求めることができる。

（庶　務）

第６条　委員会の庶務は、キャリア支援課がこれにあたる。

２　会議の議事録は、委員長の指名する者が作成し、議長が確認後、キャリア支援課長が保管する。

（規程の改廃）

第７条　この規程の改廃は、キャリア支援センターの議を経て学長が決定する。

附　則

1　この規程は、平成21年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、平成22年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、平成24年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、平成26年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、平成27年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、2019年４月１日から施行する。

1　この規程の改正は、2025年４月１日から施行する。